

新専門医制度 内科領域

大阪大学医学部附属病院 内科専門研修プログラム

プログラム冊子

別表資料 A) ～ E)

大阪大学医学部附属病院 内科専門医研修プログラム

目次

1. プログラムの概要
2. 専門研修施設群
3. 研修の行われ方（研修方法、研修内容）
4. 研修の到達目標・経験目標
5. 研修コース（内科基本コースと Subspecialty 重点コース）
6. 研修の評価方法
7. 研修の修了判定
8. 研修の休止・中断・プログラム移動について
9. 専門研修修了後のフォローアップ体制
10. 本プログラムの魅力・持ち味について
11. 専攻医の受け入れ人数
12. 専攻医の就業環境
13. 研修プログラム管理運営体制
14. 研修プログラムの改善方法
15. 専攻医の採用について
16. 基幹施設における各診療科の特徴と週間スケジュール
17. その他（指導医の要件、プログラム運用マニュアル等）

別表資料

- A) 基幹施設における各診療科の特徴および週間スケジュール
- B) 内科基本コース、Subspecialty 重点コースの年間スケジュール
- C) 基幹施設概要、連携施設概要
- D) 各年次到達目標
- E) 大阪大学医学部附属病院内科専門研修プログラム管理委員会構成委員

1. プログラムの概要

理念と特徴（整備基準1、28）

新たな内科専門医制度は、国民から信頼される内科領域の専門医を養成するための制度です。本プログラムでは、国立大学法人大阪大学の医学部附属病院を基幹施設とし、大阪府豊能医療圏にある市民病院および大阪府下の特色ある病院を連携施設に加えて病院群を形成し、その中で内科専門医を育成します。本プログラムを通じて専攻医は、内科専門医としての基本的臨床能力を獲得するだけでなく、豊能医療圏の医療事情を深く理解するとともに、本地域の実情に合わせた実践的な医療をも行えるように訓練されます。

具体的には、本プログラム参加施設群で3年間（基幹施設2年間＋連携施設1年間、または、基幹施設1年間＋連携施設2年間）にわたり研修を行います。豊富な臨床経験を持つ内科指導医の適切な指導のもと、内科専門医制度研修カリキュラムに定められた内科領域全般にわたる研修を行い、標準的かつ全人的な内科医療の実践に必要な知識と技能とを修得します。内科領域全般にわたる診療能力とは、臓器別の内科系Subspecialty 分野のどの専門医にも共通して求められる基礎的な診療能力であり、全内科医にとって必須のものです。知識や技能だけでなく、目の前の患者さんに人間性をもって接する態度をも含みます。さらに、医師としてのプロフェッショナルリズムやリサーチマインドも兼ね備え、様々な環境下でも全人的な内科医療を実践できることが必要とされます。本プログラムでは、このような能力の獲得を目指し、国民から信頼される内科専門医を育成します。

使命（整備基準2）

上記の理念によって育成された内科専門医の使命は、疾病の予防から治療に至る保健・医療活動を通じて、地域住民の健康に積極的に貢献することです。内科専門医が関わる場は多岐にわたりますが、それぞれの場において、(1)高い倫理観を持ち、(2)最新の標準的医療を実践し、(3)安全な医療を心がけ、(4)プロフェッショナルリズムに基づく患者中心の医療を提供し、(5)臓器別専門性に著しく偏ることなく全人的な内科診療を提供し、(6)チーム医療を円滑に運営していく、以上のことが求められます。本プログラムを修了して内科専門医の認定を受けた後も、内科専門医はこうした使命を果たすべく、常に自己研鑽を続け、最新の情報を学び、新しい技術を修得し、自らの診療能力をより高めることが必要です。また、将来の医療の発展のため、リサーチマインドを持って医療に従事し、臨床研究、基礎研究につながる症例や事象を見逃さないようにしなければなりません。本プログラムでは、このような使命を果たすことのできる内科専門医を育成します。

研修後の成果（整備基準3）

専門研修後の具体的な活躍の場としては、下記のような場が揚げられますが、それぞれの場に応じて、それぞれの専門医像に合致した役割を果たし、国民の信頼を獲得することが求められます。それぞれのキャリア形成やライフステージ、あるいは医療環境によって、求められる専門医像は単一ではありませんが、本プログラムでは、いずれの環境においても対応可能な可塑性の高い能力をもつ内科専門医を輩出することを、研修後の成果に据えています。

1) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）として

地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を任務とする全人的な内科診療を実践する。

2) 内科系救急医療の専門医として

内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践する。

3) 病院での総合内科（generality）の専門医として

病院での内科系診療で、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、身体・精神の統合的・機能的視野から診断・治療を行う能力を備えた総合内科医療を実践する。

4) 総合内科的視点を持ったサブスペシャリストとして

病院での内科系のサブスペシャリティを受け持つ中で、総合内科（generalist）の視点から、全人的、臓器横断的に診断・治療を行う基本的診療能力を有する内科系サブスペシャリストとして診療を実践する。

本プログラムでは大阪大学医学部附属病院を基幹病院として、多くの連携施設と病院群を形成しており、複数の施設での経験を積むことにより、様々な環境に対応できる内科専門医が育成される体制を整えています。

2. 専門研修施設群（整備基準 23～26、28、31）

本プログラムでは大阪大学医学部附属病院を基幹施設として、別表Cの地域密着・中核総合病院、高度専門医療機関、都市型総合病院を連携施設として専門研修施設群を構築することで、より総合的な研修や地域における医療体験が可能となります。

基幹施設および各連携施設の施設概要については、別表資料Cを参照してください。また、各連携施設の役割やローテート時期については、18. 専攻医研修マニュアルの項目5や別表資料Bを参照してください。ローテートのパターンによって各施設での研修期間は異なりますが、いずれのパターンにおいても、基幹施設では1年間ないしは2年間の研修を行い、連携施設においても、一つの連携施設で1年間または2年間の研修を行うことになります。

3. 研修の行われ方（研修方法、研修内容）

内科の専門研修では、幅広い疾患群を順次、経験していくことによって、内科の基礎的診療を繰り返

し学びます。それぞれの疾患や病態に特異的な診療技術を習得し、また、個々の患者の抱える多様な背景に配慮する経験も積み重ねられていきます。そして、これらの経験を単に記録するのではなく、病歴要約として、科学的根拠や自己省察を含めて記載し、複数の指導医による指導を受けることによって、リサーチマインドを備えつつも全人的医療を実践する能力を養います。

研修段階の定義

内科専門医は、2年間の初期臨床研修後に設けられた専門研修3年間の研修で育成されます。専門研修の3年間では、それぞれ医師に求められる基本的診療能力・態度・資質と日本内科学会が定める「内科専門研修カリキュラム」（別添）にもとづいて、内科専門医に求められる知識・技能の修得目標を設定し、基本科目修了の終わりに達成度を評価します。具体的な評価方法は後の項目で示します。

臨床現場での学習（整備基準13、41、43）

日本内科学会では内科領域を70疾患群（経験すべき病態等を含む）に分類し、代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載することを定めています。日本内科学会専攻医登録評価システム（仮称 以下、「専攻医登録評価システム」）への登録と、指導医の評価と承認とによって、目標達成までの段階をup to dateに明示することとします。各年次の到達目標は後述いたします（項目3や別表資料D）。各診療科カンファレンス（週1回開催）、あるいは内科合同カンファレンス（年4回開催）を通じて、病態や診断過程の理解を深め、多面的な見方や最新の情報を得ます。また、プレゼンターとして情報検索やコミュニケーション能力を高めます。専攻医2年目以降からは、初診を含む外来診療（1回／週以上）を通算で6ヵ月以上行います。また、当直業務を経験します。当直業務は主に連携施設で経験しますが、基幹施設でもローテートしている診療科によって担当する場合があります。内科領域の救急診療の経験は、こうした外来あるいは当直において積むことになります。

臨床現場を離れた学習（整備基準14、41、43）

院内講習会、院内診療科カンファレンス、院内内科合同カンファレンス、関連する外科領域との院内合同カンファレンス、CPC、JMECC、研修施設群合同カンファレンス、地域参加型カンファレンス、学術集会等への参加により学習します。そこでは、内科領域の救急対応、最新のエビデンスや病態・治療法の理解、標準的な医療安全や感染対策に関する事項、医療倫理・臨床研究や利益相反に関する事項、などについて学習します。こうした、院内外の講習会およびカンファレンスは定期的に行われています。受講歴は「専攻医登録評価システム」を用いて登録され、充足状況が把握されます。内科系学術集会、JMECC（内科救急講習会）、医療倫理講習会、医療安全講習会、感染対策講習会への必要参加回数（修了要件）は、18。内科専攻医研修マニュアルに記載されています。

自己学習（整備基準15）

研修カリキュラムにある疾患について、自身の経験がなくても自己学習すべき項目については、内科系学会が行っているセミナーのDVDやオンデマンドの配信を用いて自己学習します。（個人の経験に応じて適宜DVDの視聴ができるように準備します。）また、日本内科学会雑誌のMCQ（Multiple Choice Questions）やセルフトレーニング問題を解き、内科全領域の知識のアップデートの確認手段とします。週に1回、指

導医とWeekly summary discussionを行い、その際、当該週の自己学習結果を指導医が評価し、研修手帳に記載します。

内科基本コースとSubspecialty重点コース（整備基準32）

本プログラムでは、後述するように大きく2つのコース（内科基本コースとSubspecialty重点コース）を用意しています。内科基本コースは、高度な総合内科（Generality）の専門医を目指す場合や、将来のSubspecialtyが未定な場合に選択します。一方、Subspecialty重点コースは、希望するSubspecialty領域を重点的に研修できるコースで、それぞれの専門医像に応じた研修を準備しています。Subspecialty研修は、3年間の内科専門研修期間のうち、トータルで最長1年間、内科研修の中で行ないます。また、大学院における臨床研究は、臨床医としてのキャリアアップにも大いに有効であることから、研修期間中に臨床系大学院に進学しつつも専門医資格が取得できるプログラムを、Subspecialty重点コースの中に用意しています。

4. 研修の到達目標・経験目標

(1) 知識・技能・態度（整備基準4、5、41）

専門知識の範囲（分野）は、「総合内科」、「消化器」、「循環器」、「内分泌」、「代謝」、「腎臓」、「呼吸器」、「血液」、「神経」、「アレルギー」、「膠原病および類縁疾患」、「感染症」、ならびに「救急」で構成されています。研修カリキュラムには、これらの分野に「解剖と機能」、「病態生理」、「身体診察」、「専門的検査」、「治療法」、「疾患」などの目標（到達レベル）が記載されています。内科領域を70 疾患群に分類し、主担当医として200症例以上を担当します。代表的なものについては病歴要約や症例報告として記載します。自らが経験することのできなかつた症例についてもカンファレンスや自己学習によって知識を補足することが求められます。これによって、遭遇する事が稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行うことが可能になります。

3年間の専攻医研修期間で、以下に示す内科専門医受験資格の要件を満たすことを目標にします。尚、習得すべき疾患、技能、態度については多岐にわたるため、研修手帳や技術・技能評価手帳を参照してください。

内科専門医受験資格の要件

- 1) 70に分類された各カテゴリーのうち、最低56のカテゴリーから1例を経験すること
- 2) 専攻医登録評価システムへ症例(目標200症例、最低120例)を登録し、それを指導医が確認・評価すること
- 3) 登録された症例のうち、29症例を病歴要約として内科専門医制度委員会へ提出し、査読委員から合格の判定をもらうこと
- 4) 内科領域全般について診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針を決定する能力、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得すること

各年次の到達目標は以下の基準を目安とします。（整備基準4、5、16）

○専門研修1年

症例：カリキュラムに定める70疾患群のうち、20疾患群以上を経験し、専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。また、専門研修修了に必要な病歴要約を10編以上記載して、同システムに登録します。

技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医とともに行うことができるようにします。

態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる360度評価とを複数回行って態度の評価を行い担当指導医がフィードバックを行います。

○専門研修2年

疾患：カリキュラムに定める70疾患群のうち，通算で45疾患群以上を（できるだけ均等に）経験し，専攻医登録評価システムに登録することを目標とします。70疾患群のうち計45疾患群以上の内訳と到達基準は下記の通りです。また、専門研修修了に必要な病歴要約29編を全て記載して、同システムに登録します。

70 疾患群の内訳と2年間での到達目標

総合内科I 1 疾患群のうち1 疾患群以上
総合内科II 1 疾患群のうち1 疾患群以上
総合内科III 1 疾患群のうち1 疾患群以上
消化器 9 疾患群のうち5 疾患群以上
循環器 10 疾患群のうち5 疾患群以上
内分泌 4 疾患群のうち2 疾患群以上
代謝 5 疾患群のうち3 疾患群以上
腎臓 7 疾患群のうち4 疾患群以上
呼吸器 8 疾患群のうち4 疾患群以上
血液 3 疾患群のうち2 疾患群以上
神経 9 疾患群のうち5 疾患群以上
アレルギー 2 疾患群のうち1 疾患群以上
膠原病 2 疾患群のうち1 疾患群以上
感染症 4 疾患群のうち2 疾患群以上
救急 4 疾患群のうち4 疾患群以上
計45疾患群以上の経験が到達基準となります。

技能：疾患の診断と治療に必要な身体診察，検査所見解釈，および治療方針決定を指導医の監督下で行うことができるようにします。

態度：専攻医自身の自己評価，指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評

価を行います。専門研修1年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。

○専門研修3年

疾患：主担当医として、カリキュラムに定める全70疾患群、計200症例の経験を目標とします。但し、修了要件はカリキュラムに定める56疾患群、そして120症例以上（外来症例は1割まで含むことができる）とします。この経験症例内容を専攻医登録評価システムへ登録します。既に登録を終えた病歴要約は、二次評価査読委員（二次査読）による外部評価とフィードバックを受け、指摘事項に基づく改訂がアクセプトされるまでシステム上で継続されます。

技能：内科領域全般について、診断と治療に必要な身体診察、検査所見解釈、および治療方針決定を自立して行うことができるようにします。

態度：専攻医自身の自己評価、指導医とメディカルスタッフによる360度評価を複数回行って態度の評価を行います。専門研修2年次に行った評価についての省察と改善とが図られたか否かを指導医がフィードバックします。また、基本領域専門医としてふさわしい態度、プロフェッショナリズム、自己学習能力を修得しているか否かを、指導医が専攻医と面談し、さらなる改善を図ります。

(2) 学問的姿勢（整備基準6、30）

本プログラムでは以下のような学問的姿勢の獲得も到達目標に置いています。

- 1) 患者から学ぶという基本姿勢
- 2) 科学的な根拠に基づいた診断、治療を行う（EBM; evidence based medicine）
- 3) 最新の知識、技能を常にアップデートする（生涯学習）
- 4) 診断や治療のevidence の構築・病態の理解につながる研究を行う
- 5) 症例報告を通じて深い洞察力を磨く

このため、症例検討会や論文の抄読会、各科の研究発表会への参加を奨励します。症例検討会では、受持症例のプレゼンテーションを行い、症例に関する論文概要を提示し、討論を通してEBMの実践につなげます。論文の抄読会や各科で行われている研究発表会では、最新の知識、技能を学習し、その分野の学識を深め、国際性や医師の社会的責任についても学びます。さらに論文発表も本プログラムでは目標としています。論文の作成は科学的思考や病態に対する深い洞察力を磨くために極めて重要なことであり、内外へ広く情報発信する姿勢は高く評価されます。

学術活動の具体的目標として、学術集会や企画に年2回以上参加し、さらに筆頭演者として学会発表を1件以上、さらに症例報告や臨床研究についての論文発表を筆頭著者として1件以上を研修期間内に行います。論文発表が間に合わない場合は、筆頭演者としての学会発表を2件以上行います。

(3) 医師としての倫理性、社会性（整備基準7）

内科専門医として高い倫理観と社会性を有することが要求されます。具体的には以下のような能力、

姿勢、態度を習得します。

- 1) 患者とのコミュニケーション能力
- 2) 患者中心の医療の実践
- 3) 患者から学ぶ姿勢
- 4) 自己省察の姿勢
- 5) 医の倫理への配慮
- 6) 医療安全への配慮
- 7) 公益に資する医師としての責務に対する自律性（プロフェッショナリズム）、
- 8) 地域医療保健活動への参画
- 9) 他職種を含めた医療関係者とのコミュニケーション能力
- 10) 後輩医師への指導

医療倫理、医療安全と院内感染症対策を十分に理解するため、年に2回以上の医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会に出席します。出席回数は常時登録され、年度末になると受講履歴が個人にフィードバックされ、受講を促されます。また、病棟や外来で医学生・初期研修医を指導します。後輩を指導することは、自分の知識を整理・確認することにつながることから、当プログラムでは、専攻医の重要な取組と位置づけています。

(4) 経験すべき疾患・病態（整備基準8）

先に述べたように、主担当医として受け持つべき経験症例は専門研修を修了するまでに200 症例以上です。受け持ち患者が特定の分野に偏らないように内科全分野を70 疾患群に分類して、これらの疾患群の中から1 症例以上受け持つことを目標とします（疾患群は「研修手帳」の疾患群項目を参照のこと）。なお、専攻医研修において、内科領域はその幅の広さと稀少疾患の存在から全疾患群を受け持つ機会が困難な場合が想定されます。初期臨床研修中の内科研修での経験も内科専門研修で得られなかった貴重な経験が含まれる場合もあり、その専攻医が初期臨床研修中に経験した症例のうち、主担当医として適切な医療を行い、専攻医のレベルと同等以上の適切な考察を行っているとして指導医が確認できる場合には、最低限の範囲（全53症例まで）で登録が認められます。

(5) 経験すべき診察・検査等（整備基準9）

内科の修得すべき診察、検査は横断的なものと、分野特異的なものとに分けて設定されています（「技術・技能評価手帳」を参照）。これらは症例経験を積む中で身につけていくべきものであり、その達成度は指導医が確認します。

(6) 経験すべき手術・処置等（整備基準10）

内科領域のすべての専門医に求められる手技について、技術・技能評価手帳に示されています。内科領域ではこれらの到達目標を症例経験数で一律に規定することはできません。到達目標として提示した疾患や病態の主体的経験を通じて修得すべき事項であり、安全に実施または判定できることが求められ

ます。これらは専攻医が経験をするたびに専攻医登録評価システムに登録を行い、指導医が承認を行うことによってその到達度を評価します。また、バイタルサインに異常をきたすような救急患者や急変患者あるいは重症患者の診療と心肺機能停止状態の患者に対する蘇生手技とについては、off-the-job training としてシミュレーターを用いたJMECC 受講によって修得します。

(7) 地域医療の経験（病診・病病連携、地域包括ケア、在宅医療など）（整備基準11）

本プログラムでは、大阪大学医学部附属病院（基幹施設）において、臓器別のサブスペシャリティ領域に支えられた高度な急性期医療を経験しますが、また同時に、地域の病診・病病連携の中核としての役割も経験します。北摂地区の連携施設では、コモンディジーズの経験をすると同時に、中核病院との病病連携や診療所と中核病院との間をつなぐ病診・病病連携の役割を経験します。また、地域包括ケアや在宅医療などについても研修します。このように、立場や地域における役割の異なる複数の医療機関で研修を行うことによって、各医療機関が地域においてどのような役割を果たしているかを経験し、内科専門医に求められる役割を経験します。

(8) 学術活動（整備基準12、30）

内科専攻医に求められる姿勢とは単に症例を経験することにとどまらず、これらを自ら深めてゆく姿勢です。この能力は自己研鑽を生涯にわたってゆく際に不可欠となります。このため、本プログラムでも、症例の経験を深めるための学術活動と教育活動も、経験目標として設定しています。

教育活動（必須）

- 1) 初期臨床研修医あるいは医学部学生の指導を行う
- 2) 後輩専攻医の指導を行う
- 3) メディカルスタッフを尊重し、指導を行う

学術活動

- 4) 内科系の学術集会や企画に年2 回以上参加する（必須）
- 5) 経験症例についての文献検索を行い、学会、研究会等で症例報告を行う
- 6) クリニカルクエスションを見出して臨床研究を行う
- 7) 内科学に通じる基礎研究を行う

上記のうち5) ～7) は筆頭演者として学会発表を1 件以上、筆頭著者として論文発表を1 件以上、行います。論文発表が間に合わない場合は、筆頭演者としての学会発表を2 件以上することとします。

5. 研修コース（内科基本コースと Subspecialty 重点コース）

本プログラムでは専攻医が抱く専門医像や将来の希望に合わせて以下の 2つのコース，①内科基本コース，②Subspecialty重点コース，を準備しています。コース選択後も条件を満たせば他のコースへの移

行も認められます。

Subspecialtyが未決定、または高度な総合内科専門医を目指す場合は内科基本コースを選択します。3年間で各内科や内科臨床に関連ある救急部門などをローテートします。将来のSubspecialtyが決定している専攻医はSubspecialty重点コースを選択します。いずれのコースを選択しても遅滞なく内科専門医受験資格を得られる様に工夫されており、専攻医は卒後5-6年で内科専門医、その後Subspecialty領域の専門医取得ができます。

内科基本コース

内科（Generality）専門医は勿論のこと、将来、内科指導医や高度な Generalist を目指す方も含まれます。将来の Subspecialty が未定な場合に選択することもあります。内科基本コースは内科の領域を偏りなく学ぶことを目的としたコースであり、専攻医研修期間の 3 年間に於いて内科領域を担当する全ての科をローテートします。原則として 3 ヶ月を 1 単位として、各病棟（全 7 病棟）をローテートします（基本コース KKR パターン）。3 年目は地域医療の経験と症例数が充足していない領域を重点的に連携施設で研修します。また、1～2 年目を連携施設でローテートして common disease と地域医療を経験し、3 年目を基幹施設で難治性疾患、希少疾患を重点的に研修する場合があります（基本コース RRR パターン）。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、プログラム統括責任者が決定します。

Subspecialty重点コース（整備基準32）

希望するSubspecialty領域を重点的に研修するコースです。また、本プログラムによる研修期間内に大学院への進学を希望する人はこのコースを選択します。最初の2年間で必要な症例を経験し、3年目にSubspecialty領域を重点的に研修することになります。1～2年目は基幹施設において、原則3ヶ月を1単位として各病棟（全7病棟）をローテートします。3年目には、連携施設において内科研修を継続し、Subspecialty領域を重点的に研修します（サブスペ重点コースKKRパターン）。1年目に基幹施設、2年目は他の連携施設で研修するパターンもあります。（サブスペ重点コースKRRパターン）逆に、1～2年目を連携施設で偏りなく内科疾患全般を研修し、3年目に基幹施設でSubspecialty領域を重点的に研修する場合があります（サブスペ重点コースRRRパターン）。さらに、1年目を連携施設、2年目を基幹施設でローテートし、3年目は基幹施設でSubspecialty領域を重点的に研修する場合があります（サブスペ重点コースRRKパターン）。サブスペ重点コースのRRRパターンおよびRRKパターンは、3年目から各診療科の臨床系大学院へ入学が可能であり、大学院に早く進学したい人向けのパターンといえます。研修する連携施設の選定は専攻医と面談の上、希望するSubspecialty領域の責任者とプログラム統括責任者が協議して決定します。尚、希望者は、2年目から大学院へ入学したりすることも可能です。

基幹施設における各病棟の診療科は下記の通りです。

東12階 糖尿病・内分泌・代謝内科、免疫内科

東11階 消化器内科

東10階 血液腫瘍内科

東9階 循環器内科
東8階 老年・総合内科、脳神経内科、感染症内科
東7階 呼吸器内科
東3階 腎臓内科

各コース、各パターンの年度ごとの概略については、18. 専攻医研修マニュアルの項目5および別表資料Bを参照してください。

6. 研修の評価方法（整備基準17～22、42）

形成的評価（指導医、研修委員会の役割）

担当指導医およびローテーション先の上級医は専攻医の日々のカルテ記載と、専攻医がWeb版の研修手帳に登録した症例登録を経時的に評価し、症例要約の作成についても指導します。また、技術・技能についての評価も行います。年に複数回、自己評価、担当指導医による評価、ならびにメディカルスタッフ（接点の多い複数の他職種職員5名以上を指名）による360度評価を行います。メディカルスタッフによる評価は、担当指導医によって専攻医登録評価システムに登録され、専攻医にもフィードバックされます。これらの結果を踏まえて、改善すべき点があれば、専攻医にその改善を促します。

専門研修2年修了時までには29症例の病歴要約を順次作成し、専攻医登録評価システムに登録します。ピアレビュー方式の形成的評価を行い、専門研修3年次修了までにすべての病歴要約が受理されるように改訂します。

本プログラムの研修委員会は年に複数回、プログラム管理委員会は年に1回以上開催され、専攻医登録評価システムを用いて、履修状況を確認して適切な助言を行います。また、必要に応じて、各専攻医の研修プログラムの修正を行います。

総括的评价

担当指導医は、各年次の到達目標（3. に記載）を満たす症例経験と病歴要約の総括的评价、および承認を年度終了時に行います。また、専攻医研修3年目の3月には研修手帳を通して経験症例、技術・技能の目標達成度について最終的な評価を行います。29例の病歴要約の合格、所定の講習会受講や学会参加、学会発表、論文発表も判定要因になります。最終的には指導医による総合的评价に基づいてプログラム管理委員会によってプログラムの修了判定が行われます。この修了後に実施される内科専門医試験（毎年夏～秋頃実施）に合格して、内科専門医の資格を取得します。

ベスト専攻医賞の選考

プログラム管理委員会とプログラム統括責任者は上記の評価を基にベスト専攻医賞を専攻医研修終了時に毎年1名選出し、表彰状を授与します。

専攻医による自己評価とプログラムの評価

日々の診療・教育的行事において指導医から受けたアドバイス・フィードバックに基づき、Weekly summary discussionを行い、研修上の問題点や悩み、研修の進め方、キャリア形成などについて考える機会を持ちます。毎年3月に現行プログラムに関するアンケート調査（匿名）を行い、専攻医の満足度と改善点に関する意見を収集し、次期プログラムの改訂の参考とします。アンケート用紙は別途定めます。

7. 研修の修了判定（整備基準21、53）

専攻医登録評価システムに以下のすべてが登録され、かつ担当指導医が承認していることをプログラム管理委員会が確認して修了判定会議を行います。

- 1) 主担当医として通算で最低56疾患群以上、計120症例以上の症例（外来症例は登録症例の1割まで含むことができる）の経験
- 2) 所定の受理された29編の病歴要約
- 3) 所定の2編の学会発表または論文発表
- 4) JMECC受講1回
- 5) 医療倫理・医療安全・感染防御に関する講習会を年複数回受講
- 6) 指導医とメディカルスタッフによる360度評価の結果に基づき、医師としての適性に疑問がないこと

専攻医は様式1（未定）を専門医認定申請年の1月末までにプログラム管理委員会に送付してください。プログラム管理委員会は3月末までに修了判定を行い、研修証明書を専攻医に送付します。その後、専攻医は日本専門医機構内科専門医委員会に専門医認定試験受験の申請を行ってください。

8. 研修の休止・中断・プログラム移動について（整備基準33）

出産、育児によって連続して研修を休止できる期間を6カ月以内とし、研修期間内の調整で不足分を補うこととします。6か月を超える休止の場合は、未修了とみなし、不足分を予定修了日以降に補うこととします。また、疾病による場合も同じ扱いとします。短時間の非常勤勤務期間などがある場合、按分計算（1日8時間、週5日を基本単位とする）を行うことによって、研修実績期間に加算されます。

研修中に居住地の移動、その他の事情により、研修開始施設での研修続行が困難になった場合は、移動先の基幹研修施設において研修を続行できます。その際、移動前と移動先の両プログラム管理委員会が協議して調整されたプログラムを摘要します。この一連の経緯は専門医機構の研修委員会の承認を受ける必要があります。他の領域から内科領域での専門研修に移行する場合、他の専門研修を修了し新たに内科領域専門研修を始める場合、あるいは初期研修における内科研修において専門研修での経験に匹敵する経験を有している場合には、当該専攻医が症例経験の根拠となる記録を担当指導医に提示し、担当指導医が内科専門研修の経験としてふさわしいと認め、さらにプログラムの統括責任者が認めた場合に限り、専攻医登録評価システムへの登録が認められます。症例経験として適切か否かの最終判定は、日本専門医機構内科領域研修委員会が行います。

9. 専門研修修了後のフォローアップ体制

本プログラムによる専門研修修了後は、専攻医の希望に応じて、下記のような場合が想定されますが、いずれの場合においても大阪大学の各内科系診療科が相談に応じ、責任をもってフォローアップ体制を整えます。

- 1) 内科系 subspecialty 領域の専門医を目指す：阪大病院またはその関連施設において内科系の Subspecialty 科に所属して診療に従事し、内科サブスペ研修を継続します。
- 2) 内科系の医学博士取得を目指す：大阪大学大学院医学系研究科の大学院生または研究生として、臨床研究または基礎医学研究を行い、医学博士の取得を目指します。また週に何時間かは、大学病院または地域の医療機関にて診療を実践する機会を持ち、サブスペ領域の専門医も目指します。
- 3) 内科系救急医療の専門医として活躍する：病院の救急医療を担当する診療科に所属し、内科系急性・救急疾患に対してトリアージを含めた適切な対応が可能な、地域での内科系救急医療を実践します。
- 4) 病院での総合内科（Generality）の専門医として活躍します：病院の総合内科に所属し、内科系の全領域に広い知識・洞察力を持ち、総合的医療を実践します。
- 5) 地域医療における内科領域の診療医（かかりつけ医）となります：地域において常に患者と接し、内科慢性疾患に対して、生活指導まで視野に入れた良質な健康管理・予防医学と日常診療を実践します。地域の医院に勤務（開業）し、実地医家として地域医療に貢献します。

10. 本プログラムの魅力・持ち味について

本プログラムの魅力は、何といたっても早期から大阪大学において教育を受けることができる点にあります。大学というまでもなく学問の府であり、大学ならではのアカデミズムが浸透しています。各領域の専門家が数多く在籍しており、また希少症例も含めて数多くの症例が集まってきます。つまり、教育資源が極めて豊富であるということです。

本プログラムでは、以下の3つのコンセプトを掲げています。

- ① 大阪大学の内科全体で専攻医を育てる
- ② 教育機会の充実化を図る
- ③ 学術活動に関して高い目標設定をおく

こうしたコンセプトを実現すべく、具体的に下記のような研修システムを構築する予定です。

- 専攻医を対象とした研修会（レクチャー）を定期的 to 開催します。テーマは内科全体にわた

り、先進的な内容を盛り込みます。さらに、医学英語や臨床統計疫学についても取り上げ、国際的な臨床研究の基礎を教育します。

- 9診療科の全科長が出席のもと、内科全体での症例検討会（院内内科合同カンファレンス）を定期的に行います。専攻医は研修中、必ず1回はこの場でプレゼンを行い、討論に加わり、指導を受けます。
- 国内の学会発表だけでなく、国際学会での発表も目標とします。また、論文発表も可能なかぎり行うように指導します。
- 救急について、希望者には救命救急センターにローテートして、3次救急を経験することを可能にします。
- 全身管理について、希望者にはICUにローテートして、内科全身管理を学ぶことを可能にします。
- 本プログラム中に大学院に進学した専攻医には、内科専門研修に支障をきたさない範囲で、研究指導を積極的に行っていきます。

1 1. 専攻医の受け入れ人数（整備基準27、31）

本プログラムにおける専攻医募集人数（1学年分）は7名です。

- (1) 大阪大学医学部附属病院の専門医育成プログラム（内科系）に登録された後期研修医（関連施設での在籍者も含む）は、毎学年60数名の実績があります。
- (2) 大阪大学医学部附属病院で専攻医（大学院生も含む）として新たに採用された医師人数は毎年28名前後であり、十分な後期研修医教育の実績があります。
- (3) 大阪大学医学部附属病院には各診療科に割り当てられた雇用人員数に応じて、募集定員を一診療科あたり数名の範囲で調整することが可能です。
- (4) 剖検体数は2024年度内科系診療科で5体です。連携施設から按分される剖検数を合すると充足可能と考えられます。
- (5) 本プログラムに按分される指導医数は、基幹施設のみで65名、連携施設から按分される指導医をあわせると89名であり、募集人数の専攻医を指導するに十分の人材が備わっています。

経験すべき症例数の充足について

表. 大阪大学医学部附属病院 2025年度 診療科別診療実績

2025年実績	入院延患者数 (延人数/年)	外来延患者数 (延人数/年)
循環器内科	17, 237	23, 661
腎臓内科	6, 325	15, 785
消化器内科	18, 867	42, 250
糖尿病・内分泌・代謝内科	6, 285	36, 928
呼吸器内科	11, 910	11, 901

免疫・アレルギー内科	8,239	22,632
血液・腫瘍内科	13,614	14,774
老年・総合内科	4,440	9,732
脳神経内科	11,277	17,590
感染症内科	941	1,179

上記表の入院患者について DPC 病名、退院時サマリー等、客観的資料に基づき各診療科における疾患群別の入院患者数を分析したところ、他プログラムへの按分後においても、全 70 疾患群のうち 50 疾患群において充足可能でした。従って残り 20 疾患群のうち、6 疾患群を連携施設で経験すれば 56 疾患群の修了条件を満たすことができます。連携施設には、それぞれの連携施設の特徴を生かしたコースおよびローテーションパターンを用意しています。詳細は 18. 専攻医研修マニュアルの項目 5 を参照してください。

12. 専攻医の就業環境（整備基準 40）

専攻医の就業環境を整えることを重視しています。専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、労働基準法を順守し、大阪大学医学部附属病院および各連携施設での「専攻医就業規則及び給与規則」に従います。時間外勤務については上限を明示します。専攻医の心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理します。特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は、臨床心理士によるカウンセリングを行う機会を提供します。専攻医は採用時に上記の労働環境、労働安全、勤務条件の説明を受けることとなります。プログラム管理委員会では各施設における労働環境、労働安全、勤務条件に関して報告され、これらの事項について総括的に評価します。

13. 研修プログラム管理運営体制（整備基準34～39）

本プログラムを履修する内科専攻医の研修について、責任を持って管理するプログラム管理委員会を大阪大学医学部附属病院に設置し、委員長（プログラム統括責任者）、副委員長（副プログラム統括責任者）を置きます。プログラム管理委員会の役割と権限、プログラム統括責任者の基準、および役割と権限は、日本内科学会の定める専門研修プログラム整備基準に定められた通りです。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、その委員は専門研修指導医で構成され、研修委員会委員長が統括します。基幹施設および連携施設における研修委員会の委員長も、プログラム管理委員会の委員となります。専門研修指導の基準も、日本内科学会の定める専門研修プログラム整備基準に定められた通りです。

14. 研修プログラムの評価と改善方法（整備基準 49～51）

専攻医登録評価システムを用いて、専攻医による担当指導医や研修プログラムに対する逆評価が年に複数回、無記名で行われます。その集計結果は、担当指導医、施設の研修委員会、およびプログラム管理委員会が閲覧し、プログラム管理委員会が把握した事項について、以下に分類して対応を検討し、プログラムや指導医、あるいは研修施設の研修環境の改善に役立てます。

- 1) 即時改善を要する事項
- 2) 年度内に改善を要する事項
- 3) 数年をかけて改善を要する事項
- 4) 内科領域全体で改善を要する事項
- 5) 特に改善を要しない事項

尚、本プログラムの研修施設群内で何らかの問題が発生し、施設群内での解決が困難である場合は、専攻医や指導医から日本専門医機構内科領域研修委員会に相談し、内科領域研修委員会が上記と同様に分類して対応していただくことになります。

また、専門医機構によるサイトビジット（ピアレビュー）が本プログラムに対して行われる場合には、プログラム管理委員会および研修委員会が真摯に対応し、プログラムの改善に繋がります。

1 5．専攻医の採用

1) 採用方法 本プログラム管理委員会は、日本専門医機構のスケジュール[専攻医の方 | 一般社団法人日本専門医機構一般社団法人 日本専門医機構 \(jmsb.or.jp\)](#)に従い、専攻医を募集します。内科専門研修プログラム研修委員会委員を通じて、または直接本プログラム担当(kenshu@geriat.med.osaka-u.ac.jp)まで連絡をいただき、プログラム管理委員会で審査後に採否（通常枠か連携枠も含めて）を決定して本人に通知します。

2) 研修開始届け 研修を開始した専攻医は、初年度の 4 月末日までに以下の専攻医氏名報告書を、本プログラム管理委員会(kenshu@geriat.med.osaka-u.ac.jp)に提出します。

・専攻医の氏名と医籍登録番号、日本内科学会会員番号、専攻医の卒業年度 ・専攻医の履歴書・専攻医の初期研修修了登録証 ・また、J-OSLER にも登録します。

3) 研修の修了 全プログラム終了後、プログラム管理委員長が召集するプログラム管理委員会にて審査し、研修修了の可否を判定します。点検の対象となる書類(J-OSLER より書類化する)は以下の通りです。

(1) 専門研修実績記録 (2) 「経験目標」で定める項目についての記録 (3) 「臨床現場を離れた学習」で定める講習会出席記録 (4) 指導医による「形成的評価表」 面接試験は書類点検で問題のあった事項について行われます。以上の審査により、内科専門医として適格と判定された場合は、プログラム修了となり、修了証が発行され、専門医試験受験資格を得られます。その後、資格試験に合格して資格取得されたタイミングで「専門研修修了」（内科の場合、サブスペ領域の専門医試験合格まで）となります。

1 6. 基幹施設における各診療科の特徴と週間スケジュール

基幹施設には内科系 10 診療科があり、それぞれが特徴ある診療と研修医教育を行っています。別表資料 A を参照してください。

1 7. その他（指導医の要件、プログラム運用マニュアル等）

研修指導医の要件、指導者マニュアルの整備

指導医は下記の基準を満たした内科専門医です。専攻医を指導し、評価を行います。

【必須要件】

1. 内科専門医を取得していること
2. 専門医取得後に臨床研究論文（症例報告含む）を発表している（「first author」もしくは「corresponding author」であること）、もしくは学位を有していること
3. 厚生労働省もしくは学会主催の指導医講習会を修了していること
4. 内科医師として十分な診療経験を有していること

【選択とされる要件（下記の 1, 2 いずれかを満たすこと）】

1. CPC, CC, 学術集会（医師会主催のものを含む）などへ主導的立場として関与・参加すること
2. 日本内科学会での教育活動（病歴要約の査読, JMECC のインストラクター等）に関与・参加すること

また、指導医に向けた指導医マニュアルが作成され、各指導医に提示されます。また、指導者研修計画（FD）の実施記録も、専攻医登録評価システムを用いて記録されます。

専門研修実績記録システム、専攻医研修マニュアルの整備

専門研修は別添の専攻医研修マニュアルにもとづいて行われます。専攻医は専攻医研修実績記録に研修実績を記載し、指導医より評価表による評価およびフィードバックを受けます。これらの研修実績および指導医による指導とフィードバックの記録は、専攻医登録評価システムを用いて記録されます。

別表資料A 基幹施設における各診療科の特徴および週間スケジュール

(2026 年度)

老年・高血圧内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟				
			髄液検査	髄液検査	総合診療科 外来
	科長カルテ回診(週 3 回程度)				
午後	病棟				
		神経心理学検査	高齢者総合機能評価		
	・科長回診 ・症例検討会 ・医局会		・糖尿病フレイルカンファ ・認知症カンファ	・総合診療カンファ	

病棟患者の受け持ちを行いながら、老年・高血圧内科病棟、総合診療科外来を担当します。希望に応じて腎ドプラエコー、関節エコー、心エコーなどのハンズオンセミナーを行います。

2) 学内・学外での教育の機会

大阪大学老年・総合内科学講座は附属病院では老年・高血圧内科病棟の入院患者に加え、総合診療科外来からの入院患者を担当します。老年医学のプロとして高齢者の幅広い病態を経験し、医学的・社会的に高齢者診療を行うことができることを目指します。また総合診療内科医として診断が不明の患者や総合的な治療が必要な患者を多く診療することから、プライマリー・ケアの力をつけることも目指します。

3) 大阪大学 老年・総合内科の特徴

当科が担当する疾患は主に、①老年病、②高血圧・高齢者糖尿病、③認知症、④プライマリー・ケアです。二次性高血圧や高齢者の心不全、神経変性疾患など診断・治療に専門的な知識を要するものから、市中肺炎や貧血などの common disease まで、多岐に渡ります。また、当科は女性医師も多く、子育てを行う女性にも柔軟に対応し、博士号や専門医を取得してもらっています。

① 老年病

退院後の生活を、いかに支え維持するかを念頭に置いた個別の治療を行う必要があります。高齢者総合機能評価や身体機能評価を Geriatric 5Ms というフレームワークで整理し、社会的介入を含めた包括的介入を医学的に実践します。高齢者に関するさまざまなガイドラインの作成に参加しています。

② 高血圧・高齢者糖尿病

「高血圧内科」として、二次性高血圧や難治性高血圧に対する診断や治療を専門的に行っています。また高齢者の糖尿病について、糖尿病・内分泌・代謝内科とも連携して治療を行っています。

③ 認知症

主に他の施設から「もの忘れ外来」に紹介されてくる患者さんを対象に、認知症の診断と治療を行っています。認知症精査のための入院、髄液検査を含めた各種検査、抗アミロイドβ抗体点滴の導入、社会資源の導入をすすめています。

④ プライマリー・ケア

総合診療科は診断がついていない患者が紹介されてくるため、時に診断は困難です。診療科を超えて柔軟に考え、行動できる力が試されます。従来総合診療で重要視される身体診察、診断学に加え当科では老年医学との融合を目指している全国唯一の科です。

⑤ 他科入院中高齢者の全身管理

専門的治療中に全身状態の機能低下があり当該診療科での全身管理が困難になった高齢者症例について、老年・総合内科として当科に転科した上で診療にあたります。

消化器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟				
	上部内視鏡 大腸内視鏡	上部内視鏡 大腸内視鏡	上部内視鏡 胆膵 EUS カプセル内視鏡	上部内視鏡 大腸内視鏡 胆膵 EUS	上部内視鏡 カプセル内視鏡 ESD RFA
午後	病棟				
	大腸内視鏡 ESD 消化管 EUS 小腸内視鏡 胆膵 EUS	大腸内視鏡 ESD 消化管 EUS ERCP	大腸内視鏡 胆膵 EUS/FNA ERCP 透視下処置 RFA	大腸内視鏡 ESD 消化管 EUS ERCP 小腸内視鏡	大腸内視鏡 胆膵 EUS/FNA ERCP ESD
	症例検討会 ミニレクチャー	診療局会 肝臓診療検討会 内視鏡カンファ	食道癌カンファ 胆膵処置症例カンファ 肝胆膵病理カンファ (1回/3週)	IBD 回診 消化管癌診療合同 カンファ 胆膵カンファ 肝病理カンファ (1回/月)	カルテ回診 病棟回診

病棟患者の受け持ちを行いながら、上記の消化器内科病棟、内視鏡センター、放射線科での検査、治療のいくつかを担当します。担当症例に関係する検討会に参加します。

2) 学内・学外での教育の機会

大阪大学消化器内科では、消化器内科領域での種々・多数の疾患について高度な診療を経験し、病棟医長1名、病棟主任2名、病棟副主任6名の充実した体制により、きめ細かい指導を受けることができます。週1回の病棟カンファレンスでのミニレクチャーや診療局会における症例発表により、漫然とした診療を行わず、最新の医学的知識のアップデートとともに病態のより深い理解と診療技術の向上が得られます。さらには、学会や論文による発表や後述の関連病院との研究会への参加、発表により研鑽を積む機会を設けています。診療グループ別の回診・カンファレンスや、消化器外科、放射線科など多診療科・多職種が参加したカンファレンスが開催されており、さらに高度な診療プロセスを学ぶことができます。

3) 大阪大学 消化器内科の特徴

大阪大学消化器内科では、消化器内科の各領域における専門スタッフが指導医として診療に参加し、チーム医療を実践しています。ガイドライン等に基づいた通常の診断、治療を行うのみならず、最新のエビデンスに基づく最適な医療を提供するためのプロセスを学ぶことができます。さらに、種々のカンファレンスや学会などを通じて最新の知識を得るとともに、診療能力を高めることができます。内視鏡検査、内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）、ラジオ波焼灼療法（RFA）、胆膵超音波内視鏡検査（EUS）、内視鏡的逆行性胆管膵管造影（ERCP）など消化器内科疾患各領域における検査・処置が毎日行われており、高度医療を経験し、豊富な指導医から十分な指導を受けることができます。大阪大学消化器内科では最先端の臨床・基礎研究活動も行っており、それらの研究に参加することができます。さらに、大学内にとどまらず、関連病院と連携し Osaka Gut Forum, Osaka Liver Forum, Osaka Pancreas Forum という研究会を通じ、消化管、肝臓、胆膵疾患領域においての学術交流を図り、多施設共同研究を含む臨床研究の成果を国内外に発信しています。このような診療、研究活動を通じて内科・消化器病専門医にふさわしい人材を育成しています。

循環器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	カンファレンス (8:30-9:00)				
	重症心不全回診(9:00-)			科長回診 (9:00-)	
	病棟				
	PCI（ロータブレータ）	CAG/PCI	右心カテーテル、心筋生検	PCI	PCI
	CAG（移植後）	TAVI	CAG（移植後）	右心カテーテル、心筋生検	アブレーション
	アブレーション		アブレーション		デバイス植え込み
	デバイス植え込み		デバイス植え込み		
	SHD治療（MitraClipなど）				
午後	心エコー	心エコー	心エコー	心エコー	心エコー
	病棟				
	アブレーション	アブレーション	デバイス植え込み	PCI	アブレーション
	デバイス植え込み	TAVI	右心カテーテル、心筋生検		
	右心カテーテル				
	経食道心エコー（TEE）	TEE/心エコー	TEE/心エコー	TEE	TEE/心エコー
	RI	RI	エルゴ負荷	RI	
	心臓CT	心臓CT	心臓CT	心臓CT/MRI	心臓CT
		エルゴ負荷	エルゴ負荷	エルゴ負荷	エルゴ負荷
	SHDカンファ（外科合同）	多職種カンファレンス 不整脈カンファレンス	心不全回診（16:00-17:00）	ACHD合同カンファ（月1）	
		重症心不全講義	抄読会(18:00-)		

2) 学内・学外での教育の機会

大阪大学循環器内科では病棟医長、各部門（心不全・虚血・不整脈・structural heart disease）の病棟主任およびシニアスタッフ約 15 人により、循環器領域のほぼ全ての疾患をカバーする診療体制をとっています。各部門はお互いに独立しているのではなく、全てのスタッフが全ての患者さんについて病態・治療方針を議論した上で、スペシャリストが今度な専門的治療を行うことを原則としています。専攻医の先生には病棟担当医として患者さんの診療に当たって頂き、その中で上級医の指導のもと、必要な検査治療手技（中心静脈カテーテル穿刺・心エコー・運動負荷検査・一時的ペースメーカー留置・スワンガンツカテー

テルによる右心カテーテル検査など）を習得できます。また、治療方針はスタッフ全員による毎朝のカンファレンスで議論され、病態が刻々と変わる循環器疾患の診断・治療を身につけていただくことが可能です。さらに、学会や研究会での発表機会や症例報告など、自身の経験を発信するためのスキルについての指導も行っています。

3) 大阪大学 循環器内科の特徴

大阪大学循環器内科では、カテーテル検査のみならず、カテーテルによる虚血性心疾患治療（PCI）、不整脈治療（アブレーション、デバイス治療）、SHD 治療（TAVI、M-TEER、ASD 閉鎖術など）が毎日のように行われており、これらの手技への参加、および心臓血管外科や小児科など関連各科との合同カンファレンスを通じてより専門的な治療についての理解を深めることができます。特に、重症心不全に関しては心臓移植を含めたあらゆる治療の可能性について日々議論がされており、本邦における最高の診療が行えることを目指しています。

伝統的に大阪府下・阪神間の多くの病院と緊密に連携しているのも大きな特徴であり、関連病院で組織する大阪循環器カンファレンス（OCVC）においては心不全・不整脈・虚血性心疾患の多施設共同研究が行われています。さらに、診療の過程で生じた疑問を、ヒトサンプルを用いた臨床・基礎研究によって解決していくために Human Sample Center（HSC）を開設しました。加えて、心筋症の病態解明を目的として心筋症センターも立ち上げ、診断および治療において多角的かつ包括的なアプローチを実践しています。

このような診療・研究体制に関わっていただくことによって、現在提供できる最高水準の医療を実践するだけでなく、将来にわたってその水準をさらに高めていける人材の育成を目指しています。

糖尿病・内分泌・代謝内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握	病棟 負荷試験 受け持ち患者 の把握
	病棟	病棟	病棟	病棟	病棟
午後		グループ カンファレンス			教授回診
	糖尿病教室			糖尿病教室	
		グループ回診			
	病棟	症例検討会	グローバル	病棟	ミニカンファレンス

		診療局会議	ミーティング		
--	--	-------	--------	--	--

2) 学内・学外での教育の機会

学内では、年4回の内科系セミナーが開催されており、内科系各領域のエキスパートの講演を聞く機会があります。また、毎週水曜日17時半から、グローバルミーティングが行われており、各研究室の研究進捗状況や病棟での貴重な症例の検討会を実施、さらには院内の関連診療科、基礎系の研究室の講師を招いて最新の医療ならびに基礎医学の情報を講義いただくこともあります。学外では、大阪内分泌・代謝クリニックカンファレンス（OEMCC）を6月に開催し、大学および関連施設の研修医・指導医が一同に会して症例発表会を実施し、研修医教育を実施しています。また最前線の医学を学ぶため、大阪内分泌代謝カンファレンス、Hokusetsu Target Organ Protection Forum、Meet The Expert Conference、糖尿病と多臓器障害予防の研究会を開催しています。

3) 大阪大学 内分泌・代謝内科の特徴

一般臨床で経験する事の多い common disease の基本的診断・治療のみならず、稀少疾患、難治疾患も幅広く経験できます。専門医取得に必要な専門性の高い疾患を含めて、幅広く症例を経験することが可能です。一例一例について深く病態分析を行うことが当科のモットーです。当科では初期研修医2-3名に対して、卒後6年前後の病棟担当医が10名、卒後10年前後の上級医が4名、また研修医を含めこれら医師を統括する卒後15年前後の医師2名が、病棟において診療に当たっており、内科専攻医には医学部学生および初期研修医の指導にも従事してもらいます。症例毎に複数の上級医が指導を担当し、様々な臨床経験を積んだ多くの先輩医師の考え、技術を学ぶことが可能です。また、大学ならではの研究会、症例発表会など、上記以外にも数多く開催しており、そうした場において発表する機会も与えられます。

腎臓内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	血液浄化療法				
		腎生検	腎生検		
午後	血液浄化療法				
			シャント手術	PD カンファレンス	
		科長回診			
		医局会 病理検討会、抄読会 リサーチミーティング		透析カンファレンス 病棟カンファレンス	

2) 学内・学外での教育の機会

(学内)

毎週火曜日 17 時 30 分から：病理検討会、抄読会（基礎・臨床）、リサーチミーティング

毎週火曜日の腎病理検討会では、腎生検で得られた組織を提示し、各腎疾患の病態の詳細な把握と議論を通して、今後の治療方針を決定します。リサーチミーティングでは、現在の研究の進捗状況を定期的に報告し、基礎および臨床研究の質の向上を図ります。

毎週火曜日と木曜日のカンファレンス・回診では、各症例について問題点の把握、今後の治療方針を詳細に確認・検討します。

（学外）

大阪腎疾患研究会（OCKD）、年 4 回

腎疾患セミナー、年 1 回

3) 大阪大学 腎臓内科の特徴

当科では、慢性腎炎・ネフローゼ症候群等の腎疾患治療のほか、進行慢性腎臓病に伴う水電解質バランスの異常、骨代謝異常等のさまざまな合併症に対する治療を行っています。他科共観症例が主科とほぼ同数あり、幅広い疾患に対する知識と病態の理解が必要になるため、全身の臓器と腎との連関を学ぶことができます。腎疾患に対しては年間 50-60 件腎生検を施行し病理診断・治療を行います。慢性腎臓病進行を遅らせるための教育入院プログラムも実施しています。末期腎不全では内シャント造設術および血液透析導入、腹膜透析導入や、透析合併症の治療を行います。透析の他にも血液浄化療法として血漿交換や血液吸着等の様々な血液浄化を学びます。さらに、当院の特徴である心・肝・肺移植治療に伴う腎合併症症例や、腎移植症例あるいは腎移植後内科系合併症治療も数多く経験することができます。大阪大学腎臓内科が主催する大阪腎疾患研究会（OCKD）や、学会等で経験症例を積極的に報告し、議論を深めます。また、多数の治験や臨床研究も行われており、臨床医としての研究業務に携わることで、リサーチマインドを育むことができます。

呼吸器内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	CT ガイド下生検		気管支鏡		
午後	気管支鏡 病棟担当医カンファ 呼吸器合同カンファ (内科・外科・放射線科)			気管支鏡	呼吸器内科病棟 カンファレンス 呼吸器・免疫内科症例 検討会（月 1 回）

2) 学内・学外での教育の機会

*リサーチセミナー・抄読会：呼吸器内科病棟カンファレンス内で開催。

*呼吸器内科・免疫内科合同症例検討会：月 1 回開催。教育症例を議論します。

＊研究会・セミナー：医局関連で年 10 回程度（場所は学内・学外開催）、若手の発表の機会も多い。
 ＊症例発表会：地方会の発表は、基本的に初期～後期研修医が第一演者を担当します（内科学会、呼吸器学会、肺癌学会、気管支内視鏡学会）。

3) 大阪大学 呼吸器内科の特徴

＊最大の特徴は、呼吸器センターとして内科・外科共通の病棟でシームレスに協力して診療を行います。
 ＊トランスレーショナルリサーチ：自らの基礎研究に基づいた、バイオマーカー検索や新規治療標的の評価など、大学のアドバンテージを活かした医療を行っています。
 ＊治験・臨床試験：阪大独自や多施設共同の臨床試験にも加わり、エビデンスの確立に寄与しています。
 ＊希少疾患・特殊な医療：一般医療機関のみでなく呼吸器専門施設でも比較的珍しい希少疾患や、肺移植症例の診療に携わります。

血液・腫瘍内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土・日・祝
午前	受け持ち患者情報の把握（受け持ち患者 5-10 名程度）					9:00-17:00 病棟当番業務 (2 回/月程度)
	病棟診療					
午後	病棟診療					
	医局会 研究発表会	病棟回診	新入院 カンファレンス	エキスパート パネル (第 1,3 週)		
		移植 カンファレンス		病理カンファ (不定期)		

2) 学内・学外での教育の機会

(学内) 研究発表会/抄読会(1 週おきに交代)、論文執筆指導
 (学外) 各種学会参加・発表(日本血液学会、日本内科学会、日本造血・免疫細胞療法学会などの総会・地方会)、研究会(各分野のエキスパートを招集しての講演会、不定期開催)

3) 大阪大学 血液・腫瘍内科の特徴

血液内科は研究と臨床が極めて近く、最新の研究成果がすぐに臨床試験開発、画期的な新薬の登場につながっています。実際毎年多くの造血器腫瘍に対する分子標的薬が開発され、免疫療法、細胞療法など新たな治療法開発も盛んです。例えば、かつては患者さんに変な負担のかかる骨髄移植が治療の主流であった慢性骨髄性白血病は、内服薬だけで長期生存が可能となりました。特にここ数年の進歩は著しく、治療のガイドラインも頻繁に更新されており、大幅なスピードで『治る血液疾患』に近づいています。当科でも数多くの新規薬剤の治験や新たな治療法の臨床試験を扱っており、また難治疾患の研究のための臨床試験、患者検体を用いた基礎研究も積極的に行っています。大阪大学には関連病院などから難治疾患、稀少疾患などが紹介されており、臨床試験を含む最新の治療や、造血幹細胞移植、細胞療法を含めた集学的な治療に触れることを通じて血液分野における診療のダイナミックな発展を体感できることでしょう。

【臨床】

治験・臨床試験を含む先端的な治療

各種抗癌剤治療(従来型抗癌剤治療、抗体薬、分子標的薬など)

新規抗体治療(二重特異性抗体薬など)

造血幹細胞移植(同種、自家)、細胞療法(CAR-T 療法など)

大阪府下の関連病院をはじめとして他院より紹介される、難治症例や診断困難症例、稀少な症例

【研究】

当科では世界で通用する新たな血液疾患の治療を行うための基盤的研究を行っています。特定の領域に偏らず、白血球系、赤血球系、血栓止血系と広い領域にわたって研究を行っている、というのが当科の特徴です。下記の研究グループがあります。

- ・免疫細胞治療開発研究グループ ・血小板疾患研究グループ ・赤血球疾患研究グループ
- ・造血幹細胞・ニッチ研究グループ ・臨床研究グループ

脳神経内科

1) 週間スケジュール

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	その他
大阪大学	8時半： 早朝カンファ 18時 脳卒中センターカンファ	13時半： 症例カンファ 教授回診 18時： 症例検討会 抄読会	8時半： 早朝カンファ	8時半： 早朝カンファ 16時： 脳神経内科カンファ	8時半： 早朝カンファ 17時： 脳循環カンファ	1回/月 DBS カンファ 1回/月 疼痛カンファ 1回/月 遺伝子診療部カンファ 1回/月 てんかんカンファ

2) 学内・学外での教育の機会

病棟は SCU3 床を含む計 3 2 床で運営しており、入院症例は、翌日のモーニングカンファレンスで、担当研修医、主治医が発表、検査治療方針を議論し、チーム医療、教育を実践しています。また、当科は救命救

急センター、脳神経外科の協力のもと急性期脳卒中、脳炎、多発性硬化症、ギラン・バレー症候群などの神経救急疾患も積極的に受け入れています。火曜日のカンファレンス、教授回診の後、毎週、興味深い症例についての症例検討会、研修医による研修終了時症例発表会を行っています。毎週月曜日夕方の脳外科、救命センターとの合同での脳卒中カンファレンスにおいては、全脳卒中症例の治療方針、外科治療、血管内治療の適応につき、総合的な検討を行っています。脳深部刺激療法（DBS）カンファレンスでは、パーキンソン病やその関連疾患に対する機能外科治療の検討をしており、その他診療科を超えて、疼痛カンファレンス、遺伝子診療部カンファレンス、てんかんセンターカンファレンスも定期的に開かれています。学外教育では、2か月に1回程度、初期・後期研修医のための脳神経内科勉強会において、診療の妙諦や最新の知見を関連病院の部長の先生方にお話し頂き、脳神経内科レジデント懇話会では、外部の御高名な先生をお招きし、症例報告、教育講演を頂いております。また、新難病対策法ができ、医師会の協力のもと、主治医が地域かかりつけ医のもとに直接同行し、難病・在宅医療への取り組みも積極的に大阪大学病院が中心となり運営しています。

3) 大阪大学 脳神経内科の特徴

大阪大学脳神経内科においては、パーキンソン病を中心とする神経変性疾患、神経免疫、筋疾患、脳血管障害の各専門家が揃い、より良い診療にむけて、多様な観点からみた有意義な討論を常におこなっております。又、救命救急センター、脳神経外科の協力のもと、急性期脳血管障害、神経救急も積極的に受け入れており、特に神経内科疾患と脳卒中（超急性期脳梗塞症例に対しての脳血管内治療の実践も含めた）の両者を、十分な指導体制のもと勉強できます。また診療科の垣根を超えて、院内外の密接な連携をとりながら、神経疾患に対して、総合的な観点から勉強できる体制にあります。

免疫内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前					
午後	関節エコー	病棟医検討会	検討会・回診・勉強会	関節エコー	病棟医検討会
19 時～		臨床勉強会			

2) 学内・学外での教育の機会

年2回（1、6月）に大学と関連病院合同で、症例検討・セミナー・懇親会を開催しています。大阪大学は免疫学研究が非常に盛んで、学内では免疫学関連セミナーが多く開かれており、適宜参加し免疫学研究の最前線を学び臨床への橋渡しを考えて行きます。

3) 大阪大学 免疫内科の特徴

免疫内科は生体防御機構である免疫系の異常に基づく疾患を診療対象とします。破綻による自己免疫疾患、炎症が持続する慢性炎症性疾患、過剰応答によるアレルギー疾患、減弱による免疫不全症に分けら

れます。自己免疫疾患は、単一の臓器が障害を受ける臓器特異的自己免疫疾患と、全身の臓器が障害を受ける全身性自己免疫疾患に分類されますが、当科は主に全身性自己免疫疾患を診療対象としています。臨床症状から「リウマチ性疾患」、病理学的には「膠原病」、原因機構から「免疫疾患」などと呼ばれる疾患群です。肺、血液、腎臓、関節、皮膚、筋肉、神経など免疫疾患によって冒される臓器は多岐にわたるため、常に多臓器に横断的な注意を払うことが当科の特徴です。また、多くの全身性自己免疫疾患は指定難病であり専門性の高い診療分野です。

疾患内訳では、外来では関節リウマチと類縁疾患、各種自己免疫疾患、気管支喘息などのアレルギー疾患が多く、先天性免疫不全症成人期も外来で管理しています。入院ではSLE、多発性筋炎、皮膚筋炎、全身性強皮症、混合性結合組織病などの膠原病急性期、大～小血管炎、ベーチェット病などの炎症性疾患急性期、膠原病に伴う間質性肺炎増悪期、アレルギー疾患では好酸球増多症候群、IgG4関連疾患などの診断と治療導入を行います。ステロイド治療に伴う代謝異常や、免疫抑制剤使用中の感染症のリスク評価、診断、治療も行います。また、不明熱の原因を同定するなど炎症の専門家としての診療を行います。若いSLE患者から高齢者のリウマチ性疾患まで幅広い年齢層を診療対象とし、急性期から慢性期まで診療して行きます。免疫学の進歩で免疫制御蛋白質を標的とする治療法（生物学的製剤）が普及し、免疫抑制剤の使用法も洗練されてきています。免疫疾患は治療が奏功する事が多く、内科医としての満足感が得られるでしょう。

研修では多様な症例を受け持ち、多くの経験ができるように配慮されます。当科での研修により、全身を診る内科医の基本的研修に加え、専門性の高い自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫不全症などの診断、治療を経験することができます。内科専門医取得後は、当科では膠原病・リウマチ内科専門医、アレルギー専門医を取得することを目標としています。

感染症内科

1) 週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	病棟				
	症例共有カンファ	症例共有カンファ	症例共有カンファ 医局会 研究ミーティング 手指衛生ラウンド	症例共有カンファ	症例共有カンファ 研究ミーティング
	チーム回診(毎日1時間程度)				
午後	病棟				
	チームカンファ	チームカンファ	チームカンファ	チームカンファ	チームカンファ
		グラム染色カンファ (救命救急センター)	(月2-3回) 感染症レクチャー	(月1回) グラム染色発表会	

2) 学内・学外での教育の機会

大阪大学感染症内科では、各診療科からの症例コンサルテーションと入院患者診療の双方を経験します。

診療は2チーム体制で行われ、スタッフが毎日カンファレンスで診療状況を確認するため、安全で質の高い医療を実践しながら感染症診療を学ぶことができます。さらに、各種カンファレンスを通じて知識を継続的にブラッシュアップできるほか、グラム染色、抗菌薬感受性試験、各種微生物学的検査、生化学検査を踏まえて、臨床微生物学の知識も体系的に整理することができます。このような環境で研修することにより、個々の症例対応や単なる抗菌薬選択にとどまらない、「感染症診療の基本的な考え方と一定の型」を身につけることが可能です。加えて、教室には症例報告から臨床研究まで幅広い研究実績があり、希望者は研究計画の立案から実施、学会発表・論文発表までサポートを受けることができます。

3) 大阪大学 感染症内科の特徴

大阪大学病院感染症内科の大きな魅力は、多彩な指導医のもとで、幅広く、かつ専門性の高い感染症診療を学べることです。後期研修医として内科ローテートを行う中でも、感染症を単なる“抗菌薬の使い方”としてではなく、宿主背景や臓器横断的な視点を含めて深く学ぶことができます。

1. 豊富で多彩な指導医陣

大阪大学感染症内科には、日々の診療に加えて、論文執筆や学会発表などの学術活動にも積極的に取り組む、経験豊富な指導医がそろっています。

また、指導医のバックグラウンドも多彩で、小児科、リウマチ・膠原病、血液内科など、さまざまなサブスペシャリティをもつ医師から学ぶことができます。

そのため、感染症を単独の臓器の問題としてではなく、宿主背景、免疫状態、全身管理を踏まえて考える内科的な思考過程を学ぶことができ、根拠に基づいた感染症診療を実践的に身につけられます。

2. 国内有数の移植医療

阪大病院は、全身のさまざまな臓器移植を行う国内有数の移植センターです。

そのため、移植後患者やその他の免疫不全患者に生じる多様な日和見感染症、難治性感染症、発熱精査を数多く経験できます。感染症診療の醍醐味である、宿主背景に応じた診断・治療を深く学べる環境です。

3. 高度心血管医療・救急集中治療に関連した感染症診療

阪大病院では、高度な心臓血管外科診療と長い歴史をもつ救命救急センターを背景に、一般病院では経験しにくい重症感染症を学ぶことができます。補助人工心臓（VAD）関連感染症、術後感染症、菌血症、感染性心内膜炎、敗血症、重症肺炎、カテーテル関連感染症など、循環器・外科・救急集中治療が交差する複雑な感染症診療を実践的に経験できます。

また、感染制御部とも連携し、毎週のグラム染色カンファレンスなどを通じて、微生物学的な視点と臨床判断を結びつけながら学べることも特徴です。

4. 学際的に学べる吹田キャンパスの環境

吹田キャンパスには、微生物病研究所（BIKEN）、免疫学フロンティア研究センター（IFReC）、感染症総合教育研究拠点（CiDER）といった、感染症・免疫・微生物学の中核拠点があります。臨床の現場にしながら、基礎研究やトランスレーショナルリサーチに触れ、分野横断的に感染症を学べるのは、阪大ならではの強みです。

内科ローテートの中で感染症をしっかり学びたい後期研修医にとって、非常に恵まれた研修環境です。

別表資料B

内科基本コース KKRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟5			病棟6			病棟7			予備(不足症例用)		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設 A											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1～2年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

別表資料B

内科基本コース RRKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設 A（common diseaseと地域医療を経験）											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設 A（common diseaseと地域医療を経験）											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当									専門医取得のための病歴要約提出準備		
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
3年目	病棟1		病棟2		病棟3		病棟4		病棟5		病棟6	
	基幹施設で難治性疾患、希少疾患を重点的に研修											
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

3年目の基幹施設での研修は、原則各科をローテートしていくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

別表資料B

Subspecialty重点コース KKRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟5			病棟6			病棟7			予備(不足症例用)		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
										専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設B（Subspecialty領域を重点的に研修）											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1～2年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

別表資料B

Subspecialty重点コース KRRパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	病棟1			病棟2			病棟3			病棟4		
	ローテートする診療科により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設A（1年目にローテートしてない領域を研修）											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う									専門医取得のための病歴要約提出準備		
3年目	連携施設B（Subspecialty領域を重点的に研修するとともに充足していない症例を経験） （1年目の3か月と合わせてSubspecialty領域重点研修期間は最長1年とします）											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

1年目は原則各科をローテートして偏りなく症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

別表資料B

Subspecialty重点コース RRKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A（common diseaseと地域医療を経験）											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	連携施設A（common diseaseと地域医療を経験）											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当									専門医取得のための病歴要約提出準備		
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
3年目	基幹施設（Subspecialty領域を重点的に研修するとともに不足症例を経験） （希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を研修します）											
	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

別表資料B

Subspecialty重点コース RKKパターン

専攻医研修	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	連携施設A（common diseaseと地域医療を経験）											
	1回/月以上の当直業務を6か月以上行う											
	1年目にJMECCを受講											
2年目	病棟1	病棟2	病棟3		病棟4		病棟5		病棟6			
									専門医取得のための病歴要約提出準備			
3年目	主科（希望に応じて、臨床系大学院に入学のうえ、Subspecialty領域を重点的に研修します）											
	初診+再診外来 週に1回 6か月以上担当											
	選択するSubspecialty領域により、副当直医として当直業務を1回/月以上行う											
その他の要件	医療倫理、医療安全、感染防御に関する講習会 年に2回以上の出席											

2年目は原則各科をローテートして不足症例を経験していくが、疾患によっては入院が長期にわたり、長期の担当が必要な症例もあるため、複数の診療科をまたいで症例を担当することもある。

基幹施設：大阪大学医学部附属病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設（キャンパスライフ健康支援・相談センター）が、大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）にあります。 ・ハラスメント対策委員会が院内総務課に設置されています。また、ハラスメント相談室が大阪大学吹田キャンパス内（病院と同敷地内）に設定されており、病院職員の一人が相談員として従事しており、院内職員も利用可能です。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に大阪大学学内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 82 名在籍しています(2025 年度)。 ・プログラム管理委員会および研修委員会を設置しています。 ・プログラム管理委員会は、基幹施設および連携施設の研修委員会と連携をはかり、専攻医の研修を管理します。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC（内科系）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・施設実地調査に対して、研修委員会が真摯に対応します。
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70 疾患群のうち 35 以上の疾患群について研修できる症例を診療しています。専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究が定常的に行われており、臨床研究のための講習会も定期的に行われます。 ・大阪大学臨床研究倫理委員会（認定番号 CRB5180007）、介入研究等・観察研究等倫理審査委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者 山本浩一 副プログラム統括責任者 保仙直毅 研修委員会委員長 山本浩一

指導医数（常勤）	(2025 年度) 日本内科学会指導医 82 名 総合内科専門医 145 名 内科学会指導医のうち、以下の専門医が定常的に在籍しています。 日本消化器病学会消化器専門医、日本肝臓病学会専門医 日本循環器学会循環器専門医、日本糖尿病学会専門医 日本内分泌学会専門医、日本腎臓病学会専門医 日本呼吸器学会呼吸器専門医、日本血液学会血液専門医 日本神経学会神経内科専門医、日本アレルギー学会専門医（内科） 日本リウマチ学会専門医、日本老年医学会老年科専門医、日本感染症学会専門医 JMECC ディレクター 0 名、JMECC インストラクター 8 名
外来・入院 患者数 （内科系）	2025 年度実績 外来患者延べ数 196,432 名、退院患者数 6,680 名 （病院許可病床数 一般 1034 床、精神 52 床） 2025 年度 入院患者延べ数 99,135 名（循環器内科 17,237 名、腎臓内科 6,325 名、消化器内科 18,867 名、糖尿病・内分泌・代謝内科 6,285 名、呼吸器内科 11,910 名、免疫内科 8,239 名、血液・腫瘍内科 13,614 名、老年・高血圧内科 4,440 名、脳神経内科 11,277 名、感染症内科 941 名）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある内科 11 領域、50 疾患群の症例を経験することができます。このほか、ICU と連携して ICU のローテーション研修を経験することが可能です。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、豊能医療圏における地域医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本血液学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本老年医学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設

	日本感染症学会認定研修施設
--	---------------

連携施設

1. 市立池田病院

認定基準 【整備基準24】 1) 専攻医の環境	・医師臨床研修制度基幹型臨床研修病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi環境があります。 ・池田市非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床心理士担当）があります。 ・ハラスメント対策委員会が池田市役所に整備されています。 ・女性専攻医向けの安全な、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準24】 2) 専門研修プログラムの環境	日本内科学会指導医は23名在籍しています。（2026年4月現在） ・内科専門研修プログラム管理委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、連携施設に設置されている研修委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績計6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPCを定期的に開催（2024年度実績6回、2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病・病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準24】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域15領域のうち12領域（アレルギー、膠原病、感染症を除く）では定常的に、アレルギー、膠原病、感染症領域も非常勤医と連携して専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計10演題以上の学会発表（2021年度実績7演題、2022年度実績11演題）をしています。
指導責任者	石田 永(1名) 【内科専攻医へのメッセージ】 市立池田病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、同じ医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、GeneralityとSubspecialityとのどちらも追及できる可塑性があって、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医23名、日本内科学会総合内科専門医21名、日本消化器病学会消化器専門医9名、日本肝臓学会肝臓専門医6名、日本循環器学会循環器専門医4名、日本内分泌学会内分泌専門医3名、日本糖尿病学会糖尿病専門医3名、日本腎臓学会腎臓専門医3名、日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医2名、日本神経学会神経内科専門医3名ほか
外来・入院患者数(内科系)	外来延患者数 343人/日 新入院患者数410人/月 （2025年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある15領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	地域医療支援病院 厚生労働省臨床研修指定病院（医科・歯科） 大阪府がん診療拠点病院 日本医療機能評価機構認定病院（3rdG：Ver. 2.0） 卒後臨床研修評価機構（JCEP）認定病院 日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度認定指導施設 日本炎症性腸疾患学会指導施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設 日本脾臓学会認定指導医制度指導施設

	日本肝臓学会認定施設 日本血液学会研修認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床神経生理学会認定施設 日本認知症学会教育施設 日本臨床細胞学会施設 日本アレルギー学会認定準教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本栄養治療学会 NST（栄養サポートチーム）稼働施設 日本緩和医療学会認定研修施設
--	--

2. 市立豊中病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境、Wi-Fi 環境があります。 ・豊中市非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が病院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 29 名在籍しています（2026 年 4 月 1 日現在）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北大阪内科研究会、北摂血液疾患懇話会、北摂内視鏡研究会、大阪腎疾患研究会、大阪大学内分泌・代謝研究会、豊中糖尿病研究会、豊中胃内視鏡勉強会、はーと会など）を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修センターが対応します。

認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2020 年度 6 体、2021 年度 9 体、2022 年度 8 体、2023 年度 7 体、2024 年度 8 体、2025 年度 4 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、臨床研究センターを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています（2025 年度実績 8 演題）。
指導責任者	小杉 智（内科主任部長、血液内科主任部長） 【内科専攻医へのメッセージ】 市立豊中病院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設で内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤内科医） 2025 年 4 月 1 日現在	日本内科学会指導医 28 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名 日本専門医機構認定（新）内科専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名、日本肝臓病学会専門医 5 名 日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本アレルギー学会専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会専門医 2 名、日本内視鏡学会専門医 5 名
外来・入院患者数 （内科系）	外来延患者数 109,974 名/年（2025 年度） 入院件数 87,809 件/年（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本腎臓学会認定教育施設

	日本神経学会専門医制度教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設など
--	--

3. 箕面市立病院

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（事務部経営人事室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は9名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設及び連携施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会等を定期的に開催（2025年度実績5回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025年度実績5回〔当院1回、他院4回〕）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（箕面市病診連携懇談会、研修会、箕面市立病院登録医意見会研修会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち12分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025年度実績2体、2024年度実績0体、2023年度実績2体、2022年度実績2体、2021年度実績3体、2020年度実績6体、2019年度実績12体、2018年度実績12体、2017年度実績8体）を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・倫理委員会を設置し、定期的に開催しています（2025年度実績4回）。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。

	ます。
指導責任者	森谷 真之 【内科専攻医へのメッセージ】 箕面市立病院は、豊能医療圏の中心的な急性期病院のひとつであり、大阪大学医学部附属病院および、豊能医療圏および阪神地域の医療圏の病院などと連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 9 名、日本内科学会総合内科専門医 10 名、日本消化器病学会消化器病専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 2 名、日本糖尿病学会専門医 3 名、日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本神経学会神経内科専門医 3 名、日本救急医学会救急科専門医 1 名、日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 3 名、日本肥満学会肥満症専門医 1 名、日本専門医機構認定内科専門医 4 名
外来、入院患者数（内科系）	外来延患者数 40,061 名/年（2025 年度） 入院延患者数名 34,015/年（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術、技能	技術、技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術、技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会循環器専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本肝臓学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本静脈経腸栄養学会 N S T 稼働認定施設 など

4. 国立循環器病研究センター病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント相談窓口が人事課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 72 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し（2024 年度実績 5 回）、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス 2023 年度実績 2 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。（2024 年度 10 体）
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究が可能な環境が整っています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・臨床研究推進センターが設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度実績 2 演題）をしています。また、内科系学会への学会発表にも積極的に取り組んでいます（2024 年度 329 演題）
指導責任者	野口 暉夫 【内科専攻医へのメッセージ】 国立循環器病研究センターは、豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。

指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 72 名 日本内科学会総合内科専門医 50 名 日本循環器学会循環器専門医 54 名 日本脳卒中学会脳卒中専門医 20 名 日本糖尿病学会専門医 7 名 日本内分泌学会専門医 2 名 日本腎臓病学会専門医 6 名 日本神経学会神経内科専門医 22 名 日本老年医学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 1 名 日本感染症学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院患者数	外来患者 171,001 名 (2025 年実績) 入院患者 13,635 名 (2025 年実績)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 5 領域、24 疾患群の症例を経験することができます
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本超音波医学会研修施設 日本透析医学会研修施設 日本脳卒中学会研修施設 日本高血圧学会研修施設 など

5. 国立病院機構大阪刀根山医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度協力型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署 (窓口：管理課) があります。 ・ハラスメントに適切に対処する部署 (窓口：管理課) があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です (定期利用のみ)。
--------------------------------	---

認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は 14 名在籍しています (2026 年 4 月現在) ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催 (2025 年度実績 12 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催 (2025 年度実績 5 回) し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス (病病、病診連携カンファレンス) を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 2 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています (呼吸器 脳神経)。 専門研修に必要な剖検 (2025 年度 6 体) を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表 (2025 年度実績 2 演題) をしています。
指導責任者	松村 剛 (内科学会指導医/総合内科専門医) 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪刀根山医療センターは、豊中市にある呼吸器疾患と神経疾患の専門病院であり、両領域の基幹施設です。基幹施設と連携して内科専門研修を行います。専攻医の研修目的に合わせたプログラムで、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数 (常勤)	日本内科学会指導医 17 名、日本内科学会総合内科専門医 17 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 13 名、 日本神経学会神経内科専門医 16 名
外来、入院 患者数 (内科系)	外来患者 53,697 名 (平均延数 4,475 名/月) 新入院患者 2,928 名 (平均数 244/月) (2025 年度)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳 (疾患群項目表) にある 2 領域、15 疾患群の症例を経験することができます。 (詳細はお問い合わせください)
経験できる技術。技能	技術。技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。診療連携	急性期医療だけでなく、高齢化社会に対応した地域に根ざした医療、慢性疾患の診療を通して病診。病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設

	日本リウマチ学会教育施設 など
--	-----------------

6. 一般財団法人 住友病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 専攻医各個人に 1 つずつ座席とロッカーが与えられます。 ・ 研修に必要なインターネット環境があります。各個人にそれぞれ 1 台の PC 端末が貸与され常に電子カルテにアクセス可能です。カルテからの情報収集やカルテ記載のために順番待ちをするということはありません。 ・ また図書室は 24 時間使用可能です。100 種以上の英文ジャーナルを定期購読しており、専任の司書が存在するので文献検索も容易です。 ・ 一般財団法人住友病院常勤医師として労務環境が保障されています。 ・ 院内の職員用レストランは昼食、夕食に利用可能で、病院からの補助があるので 1 食 350～400 円程度で質、量ともに満足できます。 ・ メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ ハラスメント委員会が整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 32 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者・副院長）、にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 病診連携や病病連携など地域参加型のカンファレンス（基幹施設：中之島地域医療セミナー、臨床集談会、北大阪生活習慣病病診連携をすすめる会、SOK s の会（循環器）、新大阪腎疾患カンファレンス、大阪血液疾患談話会、神経内科の集い、大阪肝疾患臨床検討会 OLD-CC、呼吸器 CRP カンファレンス、なにわ緩和ケアカンファレンス、など；年間 60～70 回）を定期的開催し、ローテーション中の専攻医に受講を勧め、そのための時間的余裕を 与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（院内開催あり）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・ カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・ 70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・ 専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 7 体、2024 年度 12 体、2025 年度 8 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室、医学写真室などを整備しています。 ・ 倫理委員会を設置し、定期的開催（2025 年度実績 5 回）しています。 ・ 治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 5 回）してい

	ます。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2023年度実績10演題、2024年度実績9演題、2025年度実績10演題）をしています。 ・専攻医が学会に参加・発表する機会が多くあり、和文・英文論文の筆頭著者としての執筆も定期的に行われています。在籍中に筆頭著者として英文論文を複数発表した専攻医も過去に何人もいます。
指導責任者	山本 浩司 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は大阪医療圏の中心的な急性期病院の一つであり、近隣医療圏にある多くの連携施設と併せて内科専門研修を行っています。 急性期から慢性期まで、また、common disease から専門性の高い疾患の高度医療に至るまで、できる限り多くの症例を主担当医として経験し幅広い知識・技術を習得して頂くとともに、患者の社会的背景の把握、療養環境調整など全人的な医療を実践でき、地域医療にも貢献できる内科専門医の養成を目標としています。 診療科・出身医局・職種間の垣根が低く、連携・協力関係が極めて良好であるという当院の特色を生かして研修に邁進して頂きたいと思います。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 32 名、日本内科学会総合内科専門医 31 名 日本血液学会血液専門医 4 名、日本内分泌学会専門医 5 名、 日本糖尿病学会専門医 7 名、日本腎臓学会専門医 7 名、 日本高血圧学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 4 名、 日本リウマチ学会専門医 4 名、日本循環器学会循環器専門医 8 名、 日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本消化器病学会消化器専門医 11 名、 日本消化器内視鏡学会消化器内視鏡専門医 10 名、 日本消化管学会胃腸科専門医 1 名、日本大腸肛門病学会専門医 2 名、 日本肝臓学会専門医 2 名、日本超音波医学会専門医 3 名、 日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本臨床神経生理学会専門医 2 名、 日本脳卒中学会専門医 4 名、日本脳神経血管内治療学会専門医 1 名、 日本老年医学会専門医 4 名、日本老年精神医学会専門医 1 名、 日本精神神経学会精神科専門医 1 名、日本認知症学会専門医 2 名、 日本小児科学会専門医 3 名、日本小児神経学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医 1 名、日本人類遺伝学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 1,217 名（1 日平均） 入院患者 323 名（1 日平均） ※2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、専攻医登録評価システム（J-OSLER）（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本呼吸器学会認定医制度認定施設 日本血液学会認定医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本神経学会認定医研修施設 日本老年医学会専門医制度認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門施設

	日本肝臓学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本高血圧学会高血圧研修施設 日本超音波医学界認定超音波専門医制度研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本認知症学会認定専門医教育施設 など
--	--

7. 公益財団法人日本生命済生会 日本生命病院

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・日本生命病院常勤医師としての勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（臨床研修部及び総務人事グループ担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医も安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 20 名在籍しています。（2026 年 4 月現在） ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策の各講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病病、病診連携カンファレンス）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医 JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 13 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 の疾患群のうちほとんどの疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・倫理委員会および治験審査委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	橋本 久仁彦 【内科専攻医へのメッセージ】 日本生命病院は、「済生利民」を基本理念とする日本生命済生会が昭和 6 年に設立しました。現在では 29 診療科・10 診療センター、病床数 350 を擁する大阪西部地域の基幹病院へと発展しており、予防から治療・在宅まで一貫した医療サービ

	スの提供を実践しています。急性期医療だけでなく慢性期医療や地域医療にも貢献し、全人的医療を行うとともにリサーチマインドを持った内科専門医を育成します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 20 名、 日本内科学会総合内科専門医 20 名、 日本消化器病学会消化器専門医 7 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 7 名、 日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会専門医 5 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、 日本内分泌学会専門医 3 名、 日本リウマチ学会専門医 2 名、 日本呼吸器学会専門医 5 名、 日本血液学会血液専門医 3 名、 日本神経学会専門医 1 名、 日本腎臓学会専門医 2 名、 日本透析医学会専門医 1 名、 日本老年学会老年病専門医 1 名 日本救急医学会救急科専門医 1 名
外来・入院 患者数 （内科系）	外来患者 384 名（一日平均） 入院患者 146 名（一日平均）（2025 年度）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本消化器病学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本超音波医学会専門医制度研修施設 日本胆道学会指導施設 日本内分泌学会認定教育施設

	日本糖尿病学会認定教育施設 日本呼吸器学会呼吸器内科領域専門研修制度基幹施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本アレルギー学会専門医準教育施設 日本血液学会専門研修認定施設 日本神経学会専門医制度准教育施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定制度認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血細胞移植認定施設（診療科） 日本認知症学会専門医制度教育施設
	(2026 年 4 月 1 日現在)

8. 淀川キリスト教病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。貸与されたタブレット端末を用いて電子ジャーナル検索がいつでもできます。 ・淀川キリスト教病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（メンタルヘルス推進課）があります。 ・ハラスメント相談窓口およびハラスメント防止・対応マニュアルが淀川キリスト教病院グループ内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。また院内で病児保育の利用も可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 29 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターが設置されています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 12 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラム所属の全専攻医に JMECC 受講（2025 年度開催実績 1 回：受講者 9 名）を義務付けそのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。

認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 5 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，資料作成室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ・治験審査委員会を設置し，定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 14 演題）をしています。
指導責任者	紙森 隆雄 【内科専攻医へのメッセージ】 内科専門医を目指す方々は専門研修にどのようなイメージを持っておられるでしょうか。 内科の基礎をしっかりと学びたい方もいれば，早く subspecialty 領域の力をつけて行きたい方もいるでしょう。将来どの分野に進むにせよこの 3 年間は内科医の土台となる最も大事な時期です。淀川キリスト教病院内科プログラムでは，一人一人の希望も汲みつつ内科医としての実力を養うための専攻スケジュールを提供します。 当院は，全人医療を理念とし，幅広い診療科と高度な医療機器を備え，大阪市北部・北摂地域の医療の中心的役割を担っている 581 床の急性期総合病院です。年間 7000 件前後の救急搬送実績があります。11 科からなる内科には，将来希望する subspecialty に充実した指導医やスタッフが在籍しています。これらの総合力を活かした幅広く質の高い研修ができること，さらにそれぞれの内科で subspecialty との並行研修ができ，切れ目なく希望する専門内科に進めるというのが当プログラムの特長です。 また，地域医療から高度先進医療まで様々なニーズに応えられる多くの病院と連携しています。 プログラムでは，内科医に不可欠な知識や技能，態度，問題解決方法に加え，将来の目標に合わせた研修を自ら選択できるよう様々な配慮をしています。質の高い内科専門医を目指す研修医の皆様の参加をぜひお待ちしております。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 29 名，日本内科学会総合内科専門医 35 名， 日本消化器病学会消化器専門医 11 名，日本肝臓学会肝臓専門医 3 名， 日本循環器学会循環器専門医 7 名，日本内分泌学会専門医 4 名， 日本糖尿病学会専門医 4 名，日本腎臓病学会専門医 3 名， 日本呼吸器学会呼吸器専門医 8 名，日本血液学会認定血液専門医 3 名， 日本神経学会神経内科専門医 5 名，日本アレルギー学会専門医 6 名， 日本リウマチ学会専門医 2 名，がん薬物療法専門医 2 名， 日本感染症学会 1 名，日本消化器内視鏡学会専門医 12 名ほか
外来・入院患者数	外来患者 10271 名（2025 年度平均延数／月） 新入院患者 512 名（2025 年度平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます。急性期医療では集中治療室での超重症例の診療も可能です。
学会認定施設 (内科系)	内科専門研修プログラム基幹施設 日本血液学会血液研修施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本神経学会認定教育施設 日本脳卒中学会専門医研修教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本緩和医療学会認定教育施設 など

9. 大阪国際がんセンター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（人事G担当）があります。 ・ハラスメントに対する通報制度が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は7名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2024年度実績6回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そ

	のための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2025 年度実績 2 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（地区医師会との病診連携カンファレンス 2025 年度実績 3 回、）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 5 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題, 2020 年度実績 1 演題）をしています。
指導責任者	大川 和良 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪国際がんセンターは、高度先進医療を行う特定機能病院であり、地域がん診療拠点病院、都道府県がん診療連携拠点病院としてがん診療に重点を置きながら、幅広く高度な医療を提供する病院です。基幹施設と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 7 名、日本内科学会総合内科専門医 24 名 日本消化器病学会消化器専門医 17 名、日本肝臓病学会専門医 7 名、日本循環器学会循環器専門医 1 名、日本感染症学会感染症専門医 1 名、日本糖尿病学会専門医 1 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名、日本血液学会血液専門医 5 名、日本神経学会神経内科専門医 1 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 13 名、日本消化器内視鏡学会専門医 17 名
外来・入院 患者数 （内科系）	外来患者 約 1000 名（平均延数／日） 新入院患者 632 名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 9 領域、44 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌科認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会血液研修施設 日本神経学会専門医制度認定教育施設

	日本肝臓学会認定施設など
--	--------------

10. 桜橋渡辺未来医療病院

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（産業医が担当）があります。 ・ハラスメント委員会が総務課に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	指導医は3名在籍しています ・内科専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全講習会（2025年度実績2回）・感染対策講習会を定期的開催（2025年度実績2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・専攻医に研修施設群合同カンファレンスへの受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域連携施設でのCPCへの専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち4分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計1演題以上の学会発表を目標としています。
指導責任者	研修委員長 【内科専攻医へのメッセージ】 桜橋渡辺未来医療病院は、大阪市北医療圏における、主に循環器疾患についての中心的な急性期病院です。2024年4月に梅田の旧桜橋渡辺病院より中之島の国際医療拠点NakanoshimaCrossに移転し、施設も一新されました。基幹施設住友病院、JCHO大阪病院、日生病院および兵庫医科大学附属病院と連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医の育成を目指します。
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医3名、日本内科学会総合内科専門医9名 日本循環器学会循環器専門医18名、
外来・入院 患者数 （内科系）	外来患者 3563名（平均延数／月） 入院患者 305名（平均数／月）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある9領域、29疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。また急性冠症候群、心不全など循環器疾患の救急医療についても広く経験することが可能です。心臓カテーテル（冠動脈造影、PCI, TAVI など）、カテーテルアブレーション、デバイス植え込みなど循環器の高度な技術についても習得可能です。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。同医療法人の桜橋渡辺リハビリテーション病院でのリハビリテーション医療も経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本循環器学会専門医研修施設 日本高血圧学会専門医認定施設

11. 堺市立総合医療センター

認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・堺市立総合医療センター常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処するためヘルスケアサポートセンターを設置しています。 ・「地方独立行政法人堺市立病院機構ハラスメントの防止等に関する要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、内部統制室が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する職員寮の敷地内に院内保育所、病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は32名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会において、基幹施設、連携施設に設置されている内科専門研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床教育センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会などを定期的に開催（2025年度実績eラーニング6回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025年度実績18症例）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催（2025年度実績4回）し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2025年度自施設内開催実績1回）を義務づけ、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床教育センターが対応します。 ・特別連携施設の専門研修では、指導医の連携施設への訪問に加えて電話や週1回

	の堺市立総合医療センターでの面談・カンファレンスなどにより指導医がその施設での研修指導を行います。
認定基準 【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域のうち内分泌を除くほぼすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025年度実績13体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、自習室、ソフトウェアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催（2025年度実績12回）しています。 ・臨床研究推進室を設置し、定期的に治験審査会を開催（2025年度実績12回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会には、14演題（2025年度）の学会発表をしています。
指導責任者	西田幸司 【内科専攻医へのメッセージ】 当院内科の理念 1. 堺市二次医療圏の中核病院として急性期医療を担うことで地域医療に貢献する。 2. 優秀な内科医を育み、日本の医療に貢献する。 私が育てたい内科医は「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」です。自らの専門分野にとどまることなく、患者さんが抱えている問題を大きく把握し、優先順位を考えることで、その方に最適な医療を提供できる医師。それが、超高齢社会の日本で求められる内科医像だと考えます。そのためには、基礎的な内科力と総合的な判断力が必要です。当院では20年以上前から内科専攻医を受け入れ、ローテーションにより内科の土台作りを行ってきました。全国の「ジェネラルマインドを持ったスペシャリスト」を目指す専攻医の皆さんとともに診療できる日を心待ちにしております。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 32 名、日本内科学会総合内科専門医 28 名、日本消化器病学会消化器専門医 3 名、日本消化器内視鏡学会専門医 4 名、日本肝臓病学会専門医 3 名、日本循環器学会循環器専門医 7 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 5 名、日本透析医学会専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 3 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名、日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 4 名、日本脳卒中学会専門医 2 名、日本神経学会神経内科専門医 5 名、日本感染症学会専門医 2 名、日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名 ほか
外来・入院	外来患者17,861名（平均延数／月） 新入院患者1,181名（平均数／月）

患者数	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	内科専門研修プログラム基幹施設 日本集中治療医学会認定専門医研修施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本脳卒中学会認定研修教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本神経学会専門医制度教育施設 日本麻酔科学会認定病院 日本呼吸器学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本肝臓学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本血液学会認定医研修施設 日本病理学会研修認定施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本臨床細胞学会認定教育研修認定施設 日本感染症学会認定研修施設 日本IVR学会認定専門医修練認定施設 日本てんかん学会認定研修施設 日本禁煙学会教育認定施設 日本糖尿病学会認定教育研修認定施設 日本透析医学会専門医制度教育関連施設

12. 紀南病院

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・紀南病院常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）があります。 ・各種ハラスメント相談窓口（セクシュアル&パワーハラスメント対策委員会）が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、専用当直室が整備されていま
--------------------------------	--

	す。 施設内の保育施設が利用可能であります。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 4 名在籍しています（2026年4月現在）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（腎臓内科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績：講演会 6 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間 的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間 的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間 的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間 的 余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修委員会が対応します。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 11 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 40 以上の疾患群）について研修で きます。 ・専門研修に必要な剖検を適切に行います。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，インターネット（Wifi）を 整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・治験に関しては治験委員会が管理しています。
指導責任者	橋本整司（統括責任者（副院長）） 【内科専攻医へのメッセージ】紀南病院は，和歌山県南部の急性期病院であり，地域に根ざした第一線の病院でもあります。 近隣医療圏，近畿医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い，地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 患者本位の全人的な医療サービスが提供できる 責任感のある医師になられるよう，また学会発表や論文作成も指導し、学究的な志向を持つ医師となられるように指導させていただきます。
指導医数（常勤）	日本内科学会総合内科専門医 5 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 3 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 2 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 3 名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 日本透析医学会透析専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本心血管インターベンション学会指導医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 3317 名（1 ヶ月平均） 入院患者 6919 名（1 ヶ月平均）

(内科系)	
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本消化器内視鏡学会指導施設 日本呼吸器学会特別連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本血液学会専門研修教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本アフェレンス学会認定施設

13. 市立吹田市民病院

認定基準 【整備基準23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・医師（非常勤職員）として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（病院総務室職員、公認心理師）があります。 ・ハラスメントに適切に対処するための部署（ハラスメント窓口担当）があります。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は24名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（病院長）（総合内科専門医かつ指導医）、プログラム管理者（内科部長）（総合内科専門医かつ指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2025年度実績4回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（北大阪内科カンファレンス等）を定期的で開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。
認定基準	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも7分野以上）で定常

【整備基準23/31】 3) 診療経験の環境	的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70疾患群のうち膠原病をのぞく全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2023年度4体、2024年度4体、2025年度4体）を行っています。
認定基準 【整備基準23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（年4回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（月1回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	火伏俊之 【内科専攻医へのメッセージ】 市立吹田市民病院は、大阪県豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、豊能医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （内科系常勤医）	日本内科学会指導医9名、日本内科学会総合内科専門医20名 日本消化器病学会消化器専門医8名、日本肝臓病学会専門医7名 日本循環器学会循環器専門医4名、日本糖尿病学会専門医3名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医5名、日本血液学会血液専門医3名、 日本神経学会神経内科専門医5名、日本アレルギー学会専門医（内科）1名、日本リウマチ学会リウマチ専門医2名 ほか
外来・入院患者数	延べ外来患者16,534名（1か月平均） 新入院患者871名（1か月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある13領域、70疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療、診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会・日本心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医関連認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本超音波学会認定超音波専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本臨床細胞学会認定施設 日本がん治療認定機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 大阪府癌診療拠点病院指定書 臨床研修認定病院 など

14. 医療法人川崎病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・医療法人川崎病院非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・各種ハラスメント相談窓口が医療法人川崎病院に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長），プログラム管理者（総合診療科部長）（ともに総合内科専門医かつ指導医））にて，基幹施設，連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修室を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的で開催（2025 年度実績 6 回 適宜 e-learning 実施）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2025 年実績 2 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（院内学術集会，院内感染対策講習会，地域連携セミナー，兵庫区循環器研究会，兵庫区消化器連携セミナー，心不全カンファレンスなど（2025 年度実績 12 回）を定期的で開催し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育推進本部が対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室，インターネット（Wi-fi），統計ソフトウェアなどを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的に開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	飯田正人 【内科専攻医へのメッセージ】 医療法人川崎病院は、兵庫県神戸医療圏の中心的な急性期病院であり、神戸医療圏・近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践でき

	る内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名 日本内科学会総合内科専門医 18 名 日本消化器病学会消化器専門医 3 名 日本呼吸器学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本糖尿病学会糖尿病専門医 4 名 日本腎臓学会腎臓専門医 1 名 日本透析医学会専門医 1 名 日本血液学会血液専門医 1 名 日本肝臓学会肝臓専門医 2 名、ほか
外来・入院患者数	延べ外来患者 7,150 名(1 か月平均) 入院患者 6,712 名(1 か月平均)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本消化管学会暫定指導施設 日本カプセル内視鏡学会指導施設 日本大腸肛門学会関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本血液学会認定医研修施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本肥満学会認定肥満症専門病院 日本動脈硬化学会専門医教育病院 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 など

15. 兵庫県立西宮総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室と最新の生成 AI・Wi-Fi インターネット環境があります。 ・地方公務員法第 22 条の 2 第 1 項第 2 号の規定に基づく会計年度任用職員として正規職員に準じた労務環境が保障されています。また公舎等の利用が可能です。
--------------------------------	---

	・当センターに常勤の臨床心理士が職員のメンタルヘルス相談を随時行っています。そしてメンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理センター）が兵庫県庁にあります。希望者には毎年メンタルヘルスに関する健診を行っています。 ・院内にハラスメント委員会を設置しました。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、18時まで保育時間を延長する延長保育を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医が 52 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績 医療倫理 2 回、医療安全 2 回、感染対策 2 回）し、ZOOM 配信により専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）を定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2020 年度実績 2 回・2 体分、2021 年度実施 5 体、2022 年度実施 5 体、2023 年度実施 1 体、2024 年度実施 3 体、2025 年度実施 0 体）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（2025 年度実績 69 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち、総合内科、消化器、循環器、内分泌、代謝、腎臓、血液、神経、アレルギー、膠原病、呼吸器、感染症および救急の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・専門研修に必要な剖検（2020 年度実績 2 体、2021 年度 5 体、2022 年度実施 5 体、2023 年度実施 1 体、2024 年度実施 3 体、2025 年度実施 0 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表（2023 年度実績 9 演題、2024 年度実績 4 演題、2025 年度実績 8 演題）をしています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 10 回）しています。 ・治験センターを設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2025 年度実績 12 回）しています。 ・臨床研究センターを設置しています。 ・専攻医が国内・国外の学会に参加・発表する機会があり、和文・英文論文の筆頭演者としての執筆が定期的に行われています。 ・臨床研修センター（前期・後期）を設置しています。
指導責任者	檜原 啓之（ならはら ひろゆき） 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立西宮総合医療センター（2026 年 7 月兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院が合併移転）は、人口が増加している兵庫県西宮市の一等地（阪急電車今津線阪神国道駅から徒歩 1 分にあります。兵庫県立病院の中で最も歴史が古く、診療科間の垣根が低いチーム医療・トータルケア（全人的医療）を実践しています。兵庫県内および大阪府内の連携施設や大阪大学医学部附属病院・兵庫医科大学・関西医科大学・

	大阪医科薬科大学と連携して人材の育成や地域医療の充実に向けて様々な活動を行っています。 ・本プログラムは、初期臨床研修修了後に院内の内科系診療科のみならず連携施設と連携して、質の高い内科専門医を育成するものです。医療安全を重視し、患者本位の医療サービスが提供でき、さらに医学の進歩に貢献して国内のニーズへの貢献を担える医師を育成することを目的とするものです。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 52 名、日本内科学会総合内科専門医 29 名・内科専門医 4 名、日本消化器病学会消化器病専門医 14 名、日本消化器内視鏡学会専門医 12 名、日本肝臓学会肝臓専門医 5 名、日本循環器学会循環器専門医 5 名、日本内分泌学会専門医 4 名、日本腎臓学会腎臓専門医 5 名、日本糖尿病学会専門医 6 名、日本呼吸器学会専門医 4 名、日本リウマチ学会リウマチ専門医 4 名、日本神経学会認定神経内科専門医 3 名日本アレルギー学会専門医 2 名、日本血液学会認定血液専門医 1 名、ほか
外来・入院患者数	兵庫県立西宮病院：外来患者 12,312 名（1 ヶ月平均） 入院患者 9,695 名（1 ヶ月平均延数） 兵庫県立西宮病院：外来患者 55,297 名/年 入院患者 48,857 名/年 西宮市立中央病院：外来患者 26,001 名/年 入院患者 20,440 名/年
経験できる疾患群	軟部肉腫等のきわめて稀な疾患を含めて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。毎年 JMECC 講習会を主催します。特に緊急心臓カテーテル検査・PCI、化学療法・肝がん経皮的治療・内視鏡治療においてはより高度な専門技術を習得することができます。
経験できる地域医療・診療連携	救命救急センターと緊密に連携してドクターカー・DMAT カーを含めて超急性期症例を経験できます。2026 年 7 月には屋上にヘリポートを設置してドクターヘリを運用します。また急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会特別連携施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本血液学会血液研修施設 日本腎臓学会認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本大腸肛門病学会大腸肛門病認定施設 日本胆道学会認定指導施設

	日本禁煙学会認定教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本臨床腎移植学会認定研修施設 日本内分泌学会認定教育施設 など
--	--

16. 市立伊丹病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・伊丹市非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課人事研修担当）があります。 ・ハラスメント窓口（総務課人事研修担当）が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 33 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（診療部長）（内科指導医））にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に行う（2019 年度実績 5 回、2020 年度実績 9 回、2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 5 回、2023 年度 9 回実績、2024 年度 8 回実績）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に行う（2019 年度予定）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に行う（2019 年度実績 12 回、2020 年度実績 9 回、2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 8 回、2023 年度実績 12 回、2024 年度実績 10 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（伊丹市医師会内科医会循環器フォーラム、伊丹市医師会内科医会糖尿病フォーラム、伊丹市医師会内科医会呼吸器疾患フォーラム、伊丹市医師会消化器勉強会。外科医会合同講演会、伊丹市医師会内科医会講演会、登竜門カンファレンス、神戸 GM カンファレンスなど）を定期的に行うし、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2016 年 9 月に第 1 回を開催、2017 年 5 月に第 2 回、2018 年 5 月に第 3 回を開催、2019 年 5 月に第 4 回を開催、2022 年 10 月に第 5 回を開催、2023 年 6 月に第 6 回を開催、2024 年 10 月に第 7 回を開催）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 58 以上の疾患群）について研修できま

	す（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2018 年度実績 10 体、2019 年度 13 体、2020 年度 8 体、2021 年度 9 体、2022 年度 12 体、2023 年度 6 体、2024 年度 9 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2019 年度実績 9 回、2020 年度実績 3 回、2021 年度実績 9 回、2022 年度実績 7 回、2023 年度実績 8 回、2024 年度実績 7 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験審査委員会を開催（2019 年度実績 11 回、2020 年度実績 8 回、2021 年度実績 8 回、2022 年度実績 11 回、2023 年度実績 11 回、2024 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2019 年度実績 3 演題、2020 年度実績 3 演題、2021 年度実績 5 演題、2022 年度実績 3 演題、2023 年度実績 7 演題、2024 年度実績 3 演題）をしています。 ・学会等への参加は出張扱いとし、出張費を支給しています。（当院規定による）
指導責任者	村山洋子 【内科専攻医へのメッセージ】 市立伊丹病院は、兵庫県阪神北医療圏の中心的な急性期病院であり、阪神北医療圏、近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診。入院～退院。通院〉まで経時的に、診断。治療の流れを通じて、社会的背景。療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただきます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 33 名、日本内科学会総合内科専門医 22 名、 日本消化器病学会消化器指導医 4 名、日本消化器病学会消化器専門医 7 名、 日本消化器内視鏡学会指導医 4 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、 日本肝臓学会指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 4 名、 日本循環器学会循環器専門医 6 名、 日本呼吸器学会呼吸器指導医 2 名、日本呼吸器学会呼吸器専門医 3 名、 日本血液学会血液指導医 3 名、日本血液学会血液専門医 4 名、 日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 4 名、 日本アレルギー学会指導医（内科）1 名、日本リウマチ学会指導医 1 名、 日本老年医学会指導医 2 名、日本認知症学会指導医 2 名 日本高血圧学会指導医 1 名、日本腎臓病学会専門医 1 名 日本臨床腫瘍学会指導医 1 名ほか
外来。入院患者数	外来患者 17624 名（1 ヶ月平均） 新入院患者 904 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術。技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療。診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診、病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 臨床研修病院（基幹型） 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本膵臓学会認定施設 日本循環器学会専門医制度研修施設 日本呼吸器学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本輸血細胞治療学会認定医制度指定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会認定教育施設 日本リウマチ学会認定教育施設 日本老年医学会専門研修施設 日本認知症学会専門医教育施設 日本高血圧学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本臨床腫瘍学会専門医制度研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会専門医研修施設 日本人間ドック学会専門医制度研修関連施設 日本老年医学会認定施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 など
-----------------	---

17. 川西市立総合医療センター

認定基準【整備基準 24】1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（医事課職員担当）があります。 ・ハラスメント委員会が川西市立総合医療センター内、医療法人協和会内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室・更衣室・仮眠室・シャワー室・当直室が整備されています。 ・提携している保育所があり、利用可能です。
認定基準【整備基準 24】2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は10名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長）、プログラム管理者（診療局長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行う（2025年度実績12回）し、

	専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 8 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（病院主催川西市地域医療連携勉強会、感染防止対策講習会）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 8 分野以上で定期的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2023～2025 年度平均 7.0 体）を行っています。
認定基準【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会が設置されています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 講演以上に学会発表をしています。
指導責任者	厨子 慎一郎
	【内科専攻医へのメッセージ】 川西市立総合医療センターは 2022 年 9 月に新規開院した川西市内最大の急性期病院です。阪神北医療圏域の中核病院として広く川西市、猪名川町にわたる高齢者の多い地域の多彩な疾患が経験可能です。内科以外の診療科とも協力して積極的に診療にかかわり、生涯にわたって学習する姿勢を大事にする医師を育成します。
指導医数(常勤医)	日本内科学会指導医 10 名、日本内科学会総合内科専門医 6 名、日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本消化器病学会指導医 6 名、日本消化器内視鏡学会専門医 8 名、日本消化器内視鏡学会指導医 4 名、日本消化管学会胃腸科専門医 5 名、日本消化管学会胃腸科指導医 5 名、日本炎症性腸炎疾患学会 IBD 専門医 1 名、日本炎症性腸炎疾患学会 IBD 指導医 1 名、日本肝臓学会専門医 3 名、日本肝臓学会指導医 1 名、日本循環器学会専門医 5 名、日本脈管学会専門医 1 名、日本心血管インターベンション治療学会専門医 2 名、日本禁煙学会専門医 1 名、日本禁煙学会指導医 1 名、日本呼吸器学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 1 名、日本糖尿病学会専門医 2 名、日本内分泌学会指導医 1 名、日本内分泌学会専門医 2 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本老年病学会専門医 1 名、日本超音波学会専門医 1 名、日本超音波学会指導医 1 名、日本腎臓学会専門医 2 名、日本透析医学科専門医 2 名
外来・入院患者数	外来患者 17,355 名 入院患者数 12,971 名
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群のうち 8 領域 50 疾患群以上の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。

経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本老年医学会認定施設 日本高血圧学会研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定教育施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本腹膜透析医学科認定施設 日本透析医学会教育関連施設 日本肺癌学会認定教育施設 日本栄養療法推進協議会 NST 稼働施設認定など

18. 市立東大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・市立東大阪医療センター非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課職員担当）があります。 ・ハラスメント相談窓口が設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育も含めて利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実績はそれぞれ 1 回・2 回・2 回、Web 開催を含む）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC については、過年度 COVID-19 の影響により、開催に制限を受けていましたが、2023 年度 3 回、2024 年度 4 回、2025 年度 6 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えています。

	・地域参加型のカンファレンス（市立東大阪医療センタースクラム会、東大阪市循環器研究会、東大阪市神経筋難病地域ケア研究会、東大阪生活習慣病研究会、東大阪市消化器病症状例検討会、東大阪市腎臓病カンファレンス）を定期的を開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに登録している全ての専攻医に JMECC 受講の機会を与え、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、血液、神経、膠原病、感染症、救急の 10 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 3 演題）をしており、その他関連学会での学会発表もしています。
指導責任者	プログラム統括責任者 鷹野 譲 【内科専攻医へのメッセージ】 市立東大阪医療センターは、大阪府中河内医療圏に 2 病院しかない内科学会教育病院の 1 つで、当地区の中心的な急性期病院であり、中河内医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。また、2017 年 4 月より 3 次救命救急センターである、隣接府立中河内救命救急センターの指定管理も受託しており、当センターとの一体化した運用により、高度の救急疾患も経験できます。さらに、2019 年度には ICU、手術室の大幅な拡張工事を行い、心臓血管外科の手術も開始し、アブレーションなど循環器内科の症例も飛躍的に増加する一方、脳外科と神経内科で脳卒中当直（SCU）も開始し、さらに優れた急性期医療を経験できるようになりました。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 16 名、日本内科学会総合内科専門医 13 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本循環器学会循環器専門医 10 名 日本糖尿病学会専門医 4 名、日本腎臓病学会専門医 6 名 日本神経学会専門医 4 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本肝臓学会指導医 3 名、日本老年病学会専門医 1 名 日本血液学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会専門医 7 名 ほか
外来・入院患者数	外来患者 70,442 名/年、新患 7,564 名/年 入院患者 56,773 名/年、新入院 4,857 名/年（実数）2025 年度内科系実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。

学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会教育施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など
-----------------	---

19. 大阪はびきの医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度連携型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する制度が院内にあります。（こころの健康相談室（毎月第1月曜日）） ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・院内に託児所があり、病児保育（定員1名）も含め利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は2026年4月の時点で5名在籍しています。 ・専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理、医療安全、感染対策の各講習会を定期的で開催（2024年度実績 医療倫理1回、医療安全16回、感染対策9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加できるよう、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的で開催（2025年度実績：2回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的で開催準備中です。専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域13分野のうち、10分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。

認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、臨床研究センターを整備しています。 ・治験審査委員会を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	大阪はびきの医療センター内科専門研修プログラム責任者 森下 裕 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪はびきの医療センターは、もともと、呼吸器、感染症、アレルギー疾患の専門病院であり、この領域において非常にレベルの高い研修が行えます。さらに現在、診療領域を広げて総合医療センターを目指して整備中です。呼吸器やアレルギー疾患の専門領域を目指す先生にとっては、豊富な専門症例が経験できます。また呼吸器疾患や結核・COVID-19などの感染症、アレルギー疾患は全ての診療領域の疾患と併存してきますので、どのサブスペシャリティの領域へ進む先生にとっても将来、診療に役に立つ知識が得られます。当センターでの研修をお待ちしています。
指導医数（常勤）	日本内科学会総合内科指導医 1名（専門医 10名） 日本呼吸器学会指導医 4名（専門医 8名） 日本アレルギー学会指導医 1名（専門医 2名） 日本呼吸器内視鏡学会指導医 0名（専門医 3名） 日本リウマチ学会指導医 1名（専門医 3名）
外来・入院 患者数	2024年実績（内科系のみ）：外来患者 211.2名（平均/日）、入院患者 2,995名/年
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある7領域、30疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設（内科系）	WAO center of excellence 日本内科学会認定医制度教育関連病院 日本呼吸器学会内科系外科系指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本循環器学会認定専門医研修関連施設 日本病理学会登録施設 など

20. 大阪警察病院

認定基準 【整備基準 23】	・初期臨床研修制度基幹型、協力型研修指定病院です ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります
--------------------------	---

1) 専攻医の環境	・常勤医師（特定任期付職員）として労務環境が保障されています ・メンタルストレスに適切に対処する部署（総務課厚生係）があります ・ハラスメント窓口（人事課）が整備されています ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩コーナー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています ・院内に病児保育室があり、利用可能です ・託児手当があり、利用可能です（子が3歳に達する迄）
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は20名在籍しています(2026年4月現在) ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長））、副統括責任者（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と内科専門医研修管理室を設置します ・医療倫理、医療安全、感染対策講習会を定期的に開催（2024年度実績16回、2025年度実績16回、2026年度実績11回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催（2025年度実績1回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・CPCを定期的に開催（2023年度実績13回、2024年度実績13回、2025年度実績9回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕をあたえます ・地域参加型のカンファレンス（天王寺区医師会・病院合同講演会年1回、臨床医講習会年4回、各内科診療科地域連携講演会年5回前後、夕陽丘緩和ケア連絡会年3-4回など）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・プログラムに所属する全専攻医にJMECC受講（2023年度実績1回、2024年度実績1回、2025年度実績1回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門医研修管理室が対応します
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも56以上の疾患群）について研修できます ・専門研修に必要な剖検（2023年度実績10体、2024年度実績6体、2025年度実績7体）を行っています
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、OAルームなどを整備しています ・倫理委員会を設置し、定期的（2023年度実績12回、2024年度実績12回、2025年度実績12回）に開催しています ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2023年度実績11回、2024年度実績11回、2025年度 回実績）しています ・日本内科学会講演会（および内科学会ことはじめ）あるいは同地方会に年間で計3演題以上の学会発表（2023年度実績5題、2024年度実績5題）をしています ・学会等への参加は出張扱いとし、出張費を支給しています（当院規定による）
指導責任者	飯島 英樹

	【内科専攻医へのメッセージ】 大阪警察病院は、大阪府大阪市二次医療圏の中心的な急性期病院であり、二次医療圏・近隣医療圏にある連携施設と内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 地域医療における救急診療の要として、「断らない医療をモットー」に二次医療圏のみならず、大阪府下・近隣府県の救急疾患・急性期疾患の医療に応需しております。 内科専門医外来、E R・総合診療センターにおける外来・当直研修を通じて、初期診療に十分対応しえる医師をめざした研修を、また、高齢者医療、慢性期疾患、癌疾患などの継続的な診療など、多数の症例を経験することができます。一方、入院症例においては、入院から退院（初診・入院～退院・通院）経時的に、診断・治療の流れを経験することで、主担当医として、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医をめざしていただけます。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 20 名，日本内科学会総合内科専門医 35 名 日本消化器病学会消化器専門医 16 名，日本肝臓学会肝臓専門医 9 名， 日本循環器学会循環器専門医 10 名，日本糖尿病学会専門医 5 名， 日本内分泌学会専門医 5 名，日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名， 日本神経学会神経内科専門医 2 名，日本感染症学会専門医 1 名， 日本救急医学会救急科専門医 6 名 ほか (2026 年 4 月現在)
外来・入院患者数 (2025 年度実績)	(病院全体) 外来患者 34,639 名 (1 ヶ月平均)，入院患者 17,934 名 (1 ヶ月平均) (うち内科系) 外来患者 21,803 名 (1 ヶ月平均)，入院患者 12,483 名 (1 ヶ月平均)
経験できる疾患群	きわめてまれな疾患をのぞいて，<u>研修手帳（疾患群項目表）</u>にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます
経験できる技術・技能	・<u>技術・技能評価手帳</u>にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢化社会に対応した地域に根ざした医療，病診，病病連携なども経験できます
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会 専門医制度認定教育病院 日本感染症学会 認定研修施設 日本肝臓学会 認定医制度認定施設 日本がん治療認定医機構 認定研修施設 日本救急医学会 専門医指定施設 日本呼吸器学会 認定施設 日本循環器学会 専門医認定研修施設 日本消化器内視鏡学会 専門医制度認定指導施設 日本消化器病学会 認定施設 日本神経学会 専門医制度認定準教育施設 日本糖尿病学会 認定教育施設 日本内分泌学会 内分泌代謝科認定教育施設

	日本臨床腫瘍学会 認定研修施設 など
--	-----------------------

21. 大阪急性期・総合医療センター

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書館とインターネット環境があります。 ・非常勤医員として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する施設（大阪府こころの健康総合センター）が、病院と公園をはさんで隣にあります。 ・バランスメント対策講習会が院内で毎年開催されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、ロッカー、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・病院と同敷地内に保育所があり、病児保育も含め利用可能です。
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	・JMECC 開催要件であるディレクターが在籍しており、毎年数回講習会を開ける体制にあります。 ・指導医は 2026 年 4 月の時点で 31 名在籍しています。 ・専攻医研修委員会を設置し、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療安全、感染対策の各講習会を定期的開催（2025 年度実績 医療安全 12 回、感染対策 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2025 年度実績：7 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型カンファレンスを各診療科にて年 2 回開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科領域 13 分野のすべての分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表(2025 年度実績 9 演題)をしています。
指導責任者	大阪急性期・総合医療センター内科専門研修プログラム責任者 林 晃正
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 31 名、日本内科学会総合内科専門医 32 名
外来・入院 患者数	2025 年実績：外来患者 1,167 名（平均/日）、入院患者 20,666 名/年
経験できる疾患群	専攻医登録評価システム（J-OSLER）にある内科 13 領域、70 疾患群のほとんどすべての症例を定常的に経験することができます。当センターは高度救命救急センター、三次救急及び二次救急の指定医療機関であることを踏まえ、南大阪地域の救命救急の中核的医療機関として、24 時間体制で患者さんを受け入れています。従って、救命救急センターと連携して救急領域の不足疾患を経験することが可能です。 また、障害者医療・リハビリテーションセンターを有して、医療と福祉の連携といった観点に立った活動も行っているため、急性期から慢性期まで幅広い疾患群を経験できます。

経験できる 技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域 医療・診療連携	急性期医療だけでなく、慢性疾患、希少疾患、さらに高度先進医療を経験できます。また、大阪府南部医療圏における地域医療、病診・病々連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定教育病院 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本不整脈学会専門医研修施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定医認定施設 日本高血圧学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本アレルギー学会専門医教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医教育施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本プライマリ・ケア学会認定医研修施設 日本内科学会専門医制度研修施設 日本感染症学会研修認定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 心血管インターベンション学会研修施設 植え込み型除細動器移植・交換術認定施設 両室ペースメーカー移植術認定施設 日本胆道学会指導施設 経皮的僧帽弁接合不全修復システム認定施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 日本血液学会研修教育施設 日本脳神経血管内治療学会研修施設 日本腎デナベーション実施施設

22. 地域医療機能推進機構大阪病院

認定基準 [整備基準 24] 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 地域医療機能推進機構大阪病院専攻医として勤務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスについては、産業医、心理療法士及び総務企画課長が適切に対処します。 ・ ハラスメントについては、総務企画課長が対処します。 ・ 女性専攻医でも安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、当直室が整備されています。
--------------------------------	--

	・敷地内に院内保育所があり、病児保育を含め利用可能です。	
認定基準 [整備基準 24] 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 17 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会 を設置します。 ・専攻医に医療安全セミナーを年 2 回以上、感染対策セミナーを年 2 回以上の受講を義務づけます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・CPC を原則毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修プログラム管理委員会が対応します。	
認定基準 [整備基準 24] 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 6 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 56 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（年平均 10 体以上）を行っています。	
認定基準 [整備基準 24] 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（年 4 回）と治験審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は治験審査委員会が担当し、受託研究審査委員会（適宜開催）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。	
指導責任者	金子 晃 【内科専攻医へのメッセージ】 地域医療機能推進機構大阪病院は、大阪府 2 次医療圏である大阪市西部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。地域の実情に合わせた実践的な医療を行えるように研修を行い、総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。	
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 17 名 日本内科学会総合内科専門医 12 名 日本消化器病学会専門医 5 名 日本呼吸器学会専門医 4 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本神経学会専門医 4 名 日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 2 名	日本内科学会認定医 10 名 日本循環器学会専門医 4 名 日本肝臓学会専門医 5 名 日本腎臓病学会専門医 3 名 日本消化器内視鏡学会専門医 4 名 日本感染症学会専門医 1 名

	日本心血管インターベンション学会専門医 1 名 日本脳卒中学会認定脳卒中専門医 4 名 日本透析医学会専門医 3 名 アレルギー学会認定専門医(内科) 1 名 日本呼吸器内視鏡学会専門医 2 名 日本超音波学会認定超音波専門医 3 名 日本消化管学会認定医 1 名 日本ヘリコバクター学会認定ピロリ菌感染症認定医 3 名 日本不整脈学会認定専門医 1 名 日本がん治療認定医機構認定がん治療認定医 5 名 日本脳神経血管内治療学会専門医 1 名
外来・入院 患者数	外来患者 年間 82,090 名 (1 ヶ月平均 6,840 人) 入院患者 年間 63,558 名 (1 ヶ月平均 5,296 人) 2024 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	総合病院における急性期医療だけでなく、地域に根ざした中核病院における医療、病診・病病連携なども経験できます。また全国規模の地域医療機能推進機構のスケールメリットを生かした、僻地医療も経験もできます。
学会認定施設(内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本神経学会専門医教育施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本消化器病学会専門医認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定指導施設 日本膵臓学会認定指導施設 日本呼吸器学会認定施設 日本呼吸器内視鏡学会診療施設 日本腎臓学会認定教育施設 日本透析医学会教育関連施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本脳卒中学会研修教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器外科学会専門修練施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修基幹施設

23. 大阪労災病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・独立行政法人労働者健康安全機構の非常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署(総務課職員担当)があります。 ・ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。
---	---

	・敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 16 名在籍しています（下記）。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者（副院長・臨床検査科部長）、プログラム管理者（特任院長）（ともに総合内科専門医かつ指導医）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研修センターを設置しています。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催（2025 年度実 44 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催（2025 年度実績 12 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：堺循環器懇話会、南大阪心疾患治療フォーラム、南大阪不整脈研究会、SAKAI CKD Community、堺腎疾患懇話会、堺糖腎会、堺和泉糖尿病懇話会、南大阪臨床栄養研究会、大阪南インスリン治療フォーラム、南大阪消化器病懇話会など； 2025 年度実績 42 回）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野（少なくとも 7 分野以上）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）。 ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 6 体、2024 年度実績 7 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2025 年度実績 6 回）しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に治験委員会を開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2025 年度実績 19 演題）をしています。
指導責任者	山内 淳 【内科専攻医へのメッセージ】 大阪労災病院は、大阪府南大阪医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏・近隣医療圏にある連携施設とで内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 16 名、日本消化器病学会消化器指導医 9 名、日本内分泌学会指導医 3 名、日本人間ドック学会指導医 1 名、日本糖尿病学会指導医 3 名、日本腎

	臓学会指導医 3 名、日本老年医学会指導医 1 名、日本消化器内視鏡学会指導医 5 名、日本超音波医学会指導医 1 名、日本高血圧学会指導医 1 名、日本肝臓学会指導医 6 名、日本透析医学会指導医 3 名、日本心血管インターベンション治療学会指導医 1 名、日本神経学会神経内科指導医 1 名、ほか
外来・入院患者数	外来患者 32,880 名（1 ヶ月平均） 入院患者 16,776 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本精神神経学会研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本脳卒中学会研修教育病院 日本神経学会認定准教育施設 など

24. 国立病院機構大阪医療センター

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・ 国立病院機構大阪医療センター専攻医として労務環境が保障されています。 ・ メンタルストレスに対しては管理課長が適切に対処します。 ・ ハラスメント委員会が院内に整備されています。 ・ 女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・ 敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 42 名在籍しています。 ・ 内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・ 基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修センターを設置します。 ・ 医療倫理は年 3 回開催される臨床研究セミナー内で講義され、専攻医は受講が義務付けされます。医療安全セミナーを年 14 回、感染対策セミナーを年 12 回開催し、専攻医に受講を義務付けます。これらの講義に参加する時間的な余裕を与えます。 ・ CPC を毎月開催し、専攻医に受講を義務づけ、そのための時間的な余裕を与えます。 ・ 地域参加型のカンファレンス（法円坂地域医療セミナー、オンコロジーセミナー、

	緩和ケアセミナー）を定期的開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的な余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に内科専門研修センターが対応します。																						
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち 11 分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70 疾患群のうち 69 疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検を行っています。																						
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。 ・倫理委員会（適宜開催）と受託研究第 2 審査委員会（月 1 回）を開催し、自主研究の審査を行っています。治験管理は臨床研究推進室が担当し、受託研究第 1 審査委員会（月 1 回）で審査しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間平均 4～5 題の学会発表をしています。																						
指導責任者	柴山浩彦 【内科専攻医へのメッセージ】 国立病院機構大阪医療センターは、大阪府 2 次医療圏である大阪市東部の中核病院として、急性期医療から地域医療までを担っています。総合的な内科専門研修から Subspecialty 研修への橋渡しができると思います。3 年間の研修ののちは内科専門医として自信をもって、診療・研究に従事することができるようになるものと思います。																						
指導医数 （常勤医）	<table border="0"> <tr> <td>日本内科学会指導医 42 名</td><td>日本内科学会専門医（新制度）7 名</td></tr> <tr> <td>日本内科学会総合内科専門医 29 名</td><td>日本消化器病学会専門医 14 名</td></tr> <tr> <td>日本循環器学会専門医 12 名</td><td>日本呼吸器学会専門医 7 名</td></tr> <tr> <td>日本肝臓学会専門医 9 名</td><td>日本糖尿病学会専門医 5 名</td></tr> <tr> <td>日本腎臓学会専門医 3 名</td><td>日本血液学会専門医 5 名</td></tr> <tr> <td>日本内分泌学会専門医 3 名</td><td>日本アレルギー学会専門医 2 名</td></tr> <tr> <td>日本神経学会専門医 7 名</td><td>日本消化器内視鏡学会専門医 11 名</td></tr> <tr> <td>日本感染症学会専門医 3 名</td><td></td></tr> <tr> <td>日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名</td><td></td></tr> </table>	日本内科学会指導医 42 名	日本内科学会専門医（新制度）7 名	日本内科学会総合内科専門医 29 名	日本消化器病学会専門医 14 名	日本循環器学会専門医 12 名	日本呼吸器学会専門医 7 名	日本肝臓学会専門医 9 名	日本糖尿病学会専門医 5 名	日本腎臓学会専門医 3 名	日本血液学会専門医 5 名	日本内分泌学会専門医 3 名	日本アレルギー学会専門医 2 名	日本神経学会専門医 7 名	日本消化器内視鏡学会専門医 11 名	日本感染症学会専門医 3 名		日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名					
日本内科学会指導医 42 名	日本内科学会専門医（新制度）7 名																						
日本内科学会総合内科専門医 29 名	日本消化器病学会専門医 14 名																						
日本循環器学会専門医 12 名	日本呼吸器学会専門医 7 名																						
日本肝臓学会専門医 9 名	日本糖尿病学会専門医 5 名																						
日本腎臓学会専門医 3 名	日本血液学会専門医 5 名																						
日本内分泌学会専門医 3 名	日本アレルギー学会専門医 2 名																						
日本神経学会専門医 7 名	日本消化器内視鏡学会専門医 11 名																						
日本感染症学会専門医 3 名																							
日本臨床腫瘍学会がん薬物療法専門医 3 名																							
外来・入院患者数	外来患者 年間240,696 名（1 ヶ月平均 20,058 人） 新入院患者 年間15,793 名（1 ヶ月平均 1,316 人）																						
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 12 領域、69 疾患群の症例を幅広く経験することができます																						
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。																						
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます																						
学会認定施設 （内科系）	<table border="0"> <tr> <td>日本内科学会認定医制度教育病院</td><td>日本神経学会準教育施設</td></tr> <tr> <td>日本循環器学会認定循環器専門医研修施設</td><td></td></tr> <tr> <td>日本消化器病学会認定施設</td><td>日本肝臓学会認定施設</td></tr> <tr> <td>日本消化器内視鏡学会指導施設</td><td>日本胆道学会認定施設</td></tr> <tr> <td>日本呼吸器学会認定施設</td><td>日本呼吸器内視鏡学会診療施設</td></tr> <tr> <td>日本腎臓学会研修施設</td><td>日本透析医学会専門医制度認定施設</td></tr> <tr> <td>日本糖尿病学会認定教育施設</td><td>日本血液学会血液研修施設</td></tr> <tr> <td>日本脳卒中学会研修教育病院</td><td>日本脳神経血管内治療学会研修施設</td></tr> <tr> <td>日本感染症学会研修施設</td><td>日本救急医学会救急科専門医指定施設</td></tr> <tr> <td>日本がん治療認定医機構認定研修施設</td><td>日本臨床腫瘍学会認定研修施設</td></tr> <tr> <td>日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設</td><td></td></tr> </table>	日本内科学会認定医制度教育病院	日本神経学会準教育施設	日本循環器学会認定循環器専門医研修施設		日本消化器病学会認定施設	日本肝臓学会認定施設	日本消化器内視鏡学会指導施設	日本胆道学会認定施設	日本呼吸器学会認定施設	日本呼吸器内視鏡学会診療施設	日本腎臓学会研修施設	日本透析医学会専門医制度認定施設	日本糖尿病学会認定教育施設	日本血液学会血液研修施設	日本脳卒中学会研修教育病院	日本脳神経血管内治療学会研修施設	日本感染症学会研修施設	日本救急医学会救急科専門医指定施設	日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設	日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設	
日本内科学会認定医制度教育病院	日本神経学会準教育施設																						
日本循環器学会認定循環器専門医研修施設																							
日本消化器病学会認定施設	日本肝臓学会認定施設																						
日本消化器内視鏡学会指導施設	日本胆道学会認定施設																						
日本呼吸器学会認定施設	日本呼吸器内視鏡学会診療施設																						
日本腎臓学会研修施設	日本透析医学会専門医制度認定施設																						
日本糖尿病学会認定教育施設	日本血液学会血液研修施設																						
日本脳卒中学会研修教育病院	日本脳神経血管内治療学会研修施設																						
日本感染症学会研修施設	日本救急医学会救急科専門医指定施設																						
日本がん治療認定医機構認定研修施設	日本臨床腫瘍学会認定研修施設																						
日本超音波医学会認定超音波専門医制度研修施設																							

25. りんくう総合医療センター

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・りんくう総合医療センター非常勤医師として勤務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（労働安全衛生委員会）を設置しています。 ・「地方独立行政法人りんくう総合医療センターハラスメント防止要綱」に基づきハラスメント通報・相談窓口が設置されており、法人運営本部内部統制課が担当しています。同要綱に基づき、ハラスメント防止委員会が所要の措置を講じています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・隣接する研修棟の敷地内に院内保育所あり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は12名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と教育研修委員会を設置します。 ・医療倫理・医療安全・感染対策研修会を定期的開催（2025 年度実績 9 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（りんくう生涯教育セミナー、りんくう循環器ネットワーク研究会、りんくう糖尿病病診連携の会、泉州 COPD フォーラム、泉州消化器フォーラム、南泉州神経フォーラムなど）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に教育研修委員会が対応します。
認定基準 【整備基準 24/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち全分野（少なくとも11分野以上）で専門研修が可能な症例数を診療しています。 ・70疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも35以上の疾患群）について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025 年度実績 10 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し、定期的開催しています。 ・治験事務局を設置し、定期的治験委員会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会にて学会発表を行っています。
指導責任者	倭正也 【内科専攻医へのメッセージ】 りんくう総合医療センターは、大阪府泉州医療圏の中心的な急性期病院であり、南大阪医療圏および近隣医療圏にある連携施設での内科専門研修を経て、超

	高齢社会を迎えた我が国の医療事情を理解し、必要に応じた可塑性のある、地域の実情に合わせた実践的な地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。 主担当医として、入院から退院〈初診・入院～退院・通院〉まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践し、さらに、個々の患者に最適な医療を提供する計画を立て実行する能力の修得をもった内科専門医になります。
指導医数 (常勤医)	日本内科学会指導医 12 名、日本内科学会総合内科専門医 15 名、 日本循環器学会循環器専門医 5 名、 日本不整脈心電学会専門医 1 名、 日本心血管インターベンション治療学会(CVIT)専門医 1 名、 日本消化器病学会認定専門医 5 名、 日本消化器内視鏡学会専門医 5 名、 日本肝臓学会認定肝臓専門医 4 名、 日本腎臓病学会専門医 4 名、日本透析医学会専門医 3 名、 日本高血圧学会専門医 1 名、日本血液学会血液専門医 3 名、 日本造血・免疫細胞療法学会認定医 1 名、 日本輸血細胞治療学会認定管理師 1 名、 日本感染症学会専門医 2 名、日本リウマチ学会専門医 2 名 日本呼吸器学会専門医 1 名、日本呼吸器内視鏡学会専門医 1 名、 日本アレルギー学会専門医 1 名、日本神経学会専門医 1 名、 日本救急医学会救急科専門医 1 名、 日本集中治療医学会専門医 1 名、 日本糖尿病学会専門医 2 名、日本甲状腺学会専門医 1 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 1 名 JMECC ディレクター1 名 ほか
外来・入院患者数 (内科系)	外来患者 6,437 名(平均延数/月) 新入院患者 3,564 名(平均数/月)
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳(疾患群項目表)にある 13 領域、70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	内科専門研修プログラム基幹施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本動脈硬化学会専門医制度認定教育施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本IVR学会IVR専門医修練認定施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本腎臓学会認定教育施設

	日本透析医学会専門医制度認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設Ⅰ認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医制度認定教育施設 日本血液学会血液研修施設 日本感染症学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設・指導医指定施設 日本呼吸器学会関連施設 日本アレルギー学会アレルギー専門医教育研修施設 日本甲状腺学会認定専門医施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本集中治療医学会専門医研修施設 など
--	---

26. 兵庫医科大学

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・ 初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・ 研修に必要な図書やインターネット環境が整備されています。 ・ 専攻医の勤務時間、休暇、当直、給与等の勤務条件に関しては、専攻医の就業環境を整えることを重視します。 ・ 心身の健康維持の配慮については各施設の研修委員会と労働安全衛生委員会で管理し、特に精神衛生上の問題点が疑われる場合は臨床心理士によるカウンセリングを行います。 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように環境が整備されています。 ・ 隣接地の保育園に当院専用枠が 50 名分あり、事前手続きにより利用可能です。また、院内に病児保育室も整備されています。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・ 指導医は 44 名在籍しています。 ・ 本プログラムを履修する内科専攻医の研修について責任を持って管理するプログラム管理委員会を兵庫医科大学病院に設置し、その委員長と各内科から 1 名ずつ管理委員を選任します。プログラム管理委員会の下部組織として、基幹病院および連携施設に専攻医の研修を管理する研修委員会を置き、委員長が統括します。 ・ 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 研修施設群合同カンファレンスを定期的に参加し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ CPC を定期的に行っています。 ・ 地域参加型のカンファレンスを定期的に行い、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・ 日本専門医機構による施設実地調査に、卒後臨床研修センターとプログラム管理委員会とで対応します。

認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・ 兵庫医科大学病院には 10 の内科系診療科があり、内科領域全般の疾患が網羅できる体制が敷かれています。これらの診療科での研修を通じて経験すべき全 70 疾患群を全て充足可能です。 ・ 専門研修に必要な剖検数を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・ 臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・ 倫理審査委員会、認定臨床研究審査委員会および治験管理委員会を開催しています。 ・ 日本内科学会講演会あるいは同地方会に毎年学会発表をしています。
指導責任者	木島 貴志 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫医科大学病院は、阪神地区における基幹病院であり、急性期疾患から起床疾患まで多岐にわたる疾患群の研修が可能です。大学病院という特性から、先進的医療が充実していますが、一方、地域医療の実践も重視しており、バランスの取れた内科研修を行うことが出来ます。また教育スタッフも豊富で、臨床のみならず、臨床研究も行っており、各位の希望に沿った研修が期待できます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 58 名 日本内科学会総合内科専門医 59 名 血液専門医 8 名 日本リウマチ学会専門医 9 名 日本糖尿病学会認定専門医 11 名 日本内分泌学会専門医 9 名 日本消化器病学会消化器専門医 24 名 日本消化器内視鏡学会専門医 29 名 日本呼吸器学会専門医 9 名 日本神経学会専門医 4 名 日本腎臓学会認定専門医 9 名 日本透析医学会認定専門医 11 名 日本循環器学会専門医 18 名
外来・入院患者数	外来患者数：213,815（延人数）・入院患者数：104,879（延人数）
経験できる疾患群	研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の全てを経験することが出来ます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することが出来ます。
経験できる地域医療・診療連携	当院は急性期病院であり、回復期病棟や地域包括ケア病棟、あるいは緩和ケア病棟を持つ連携病院と一体となって、退院後も継続して患者を経過観察できる体制となっています。
学会認定施設 （内科系）	日本アレルギー学会 日本がん治療認定医機構 日本リウマチ学会 日本肝臓学会 日本血液学会

	日本呼吸器学会 日本呼吸器内視鏡学会 日本循環器学会 日本消化器内視鏡学会 日本消化器病学会 日本心血管インターベンション学会 日本緩和医療学会 日本静脈経腸栄養学会 日本動脈硬化学会 日本不整脈学会 日本神経学会 日本大腸肛門病学会 日本超音波医学会 日本糖尿病学会 日本透析医学会 日本頭痛学会 日本内科学会 日本内分泌学会 日本脳卒中学会 日本輸血・細胞治療学会 日本臨床細胞学会 日本臨床腫瘍学会 日本臨床神経生理学会 日本老年医学会 日本 IVR 学会 日本カプセル内視鏡学会 日本高血圧学会 日本消化管学会 日本胆道学会
--	---

27. 亀田総合病院

認定基準 【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・ 研修に必要な図書室とインターネット環境 ・ メンタルストレスに適切に対処するセルフケアサポートセンター ・ 悩みの相談をはじめ精神的なケアに専従するチャプレンや臨床心理士が常勤 ・ ハラスメント委員会の整備 ・ 女性専攻医も安心して勤務できるように、男女別の更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室を整備 ・ 敷地に隣接した保育所および病児保育施設 ・ 病院併設の体育館・トレーニングジム ・ その他、クラブ活動、サーフィン大会など
認定基準	・ 常にメールなどを通じて指導医、研修センターと連絡ができる環境。

【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・連携施設での研修中であっても指導医と面談しプログラムの進捗状況の報告や相談をすることができるようウェブ会議ができる環境。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	内科領域の専門知識は、広範な分野を横断的に研修し、各種の疾患経験とその省察とによって獲得されます。内科領域を 70 疾患群(経験すべき病態等を含む)に分類し、それぞれに提示されているいずれかの疾患を順次経験します。この過程によって専門医に必要な知識、技術・技能を修得します。代表的なものについては病歴要約や症例報告を記載します。 これらを通じて、遭遇することが稀な疾患であっても類縁疾患の経験と自己学習によって適切な診療を行えるようにします。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	①内科系学術集会や企画に年 2 回以上参加する(必須)。※日本内科学会本部または支部主催の生涯教育講演会、年次講演会 CPC および内科系 subspecialty 学会の学術講演会・講習会を推奨する。 ②経験症例についての文献検索を行い、症例報告を行う。 ③クリニカルクエスションを見出し臨床研究を行う。 ④内科学会に通じる基礎研究を行う。 以上を通じて、化学的根拠に基づいた思考を全人的に活かせるようにします。専攻医は学会発表あるいは論文発表を、筆頭者として 2 件以上行います。なお、専攻医が、社会人大学院など希望する場合でも、亀田総合病院内科専門医研修プログラムの修了認定基準を満たせるようにバランスを持った研修を推奨します。
指導責任者	中路 聡 【専攻医へのメッセージ】 亀田総合病院では、高いレベルで幅広く総合的な内科診療能力を修得するための研修プログラムを準備しています。 これから内科専門医研修を開始するみなさんは、一人ひとりバックグラウンドが違います。また、将来のビジョンも異なります。わたしたちには研修病院として長年の実績があります。みなさんのニーズやスタイルに合わせ、かつ効率よく最短でプログラムを終了するための研修を提供いたします。「自由と責任」、「権利と義務」のもと、形式的ではないアウトカムを重視した内科医として研修を行ってみませんか？内科専門医研修を開始するみなさん、ぜひ亀田総合病院で一緒に働きましょう！
指導医数 (常勤医)	日本内科学会総合内科専門医 34 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 7 名 日本腎臓病学会専門医 4 名 日本消化器病学会消化器専門医 6 名 日本消化器内視鏡学会専門医 6 名 日本肝臓学会専門医 2 名 日本循環器学会循環器専門医 11 名 日本血液学会血液専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名 日本臨床腫瘍学会 1 名 日本リウマチ学会専門医 2 名

	日本感染症学会専門医 8 名 日本内分泌学会専門医 3 名 日本糖尿病学会専門医 3 名 日本救急医学会専門医 5 名 他
外来・入院患者数	外来患者数：69,640 人/年 ・ 入院患者数 22,530 人/年
経験できる疾患群	全 70 疾患群、200 症例以上を経験することを目標とします。内科領域研修を幅広く行うため、内科領域内のどの疾患を受け持つかについては多様性がありますので、内科専門医に求められる知識・技能・態度修練プロセスを専門研修(専攻医)年限ごとに設定している。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳参照。幅広い疾患を網羅した知識と経験とに裏付けをされた、医療面接、身体診察、検査結果の解釈、ならびに化学的根拠に基づいた幅の広い診断・治療方針決定を指します。
経験できる地域医療・診療連携	病病・病診連携の両方での立場での研修を通じ、地域医療を幅広く多面的に学ぶことができます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度における教育病院 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本神経学会専門医制度における教育施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本緩和医療学会認定研修施設 日本透析医学会認定施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本急性血液浄化学会認定指定施設 日本呼吸器内視鏡学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本胆道学会認定指導医制度指導施設認定 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 など

28. 天理よろづ相談所病院

1) 専攻医の環境 【整備基準 24】	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・内科専攻医もしくは指導診療医として労務環境が保障されています。
------------------------	---

	・メンタルストレスに適切に対処する部署（健康管理室）があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり、病児保育、病後児保育を含め利用可能です。
2) 専門研修プログラムの環境 【整備基準 24】	・指導医が 37 名在籍しています（下記）。 ・内科専攻医研修委員会を設置して、施設内で研修する専攻医の研修を管理し、基幹施設に設置されるプログラム管理委員会と連携を図ります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的開催（2025 年度実績 医療安全・感染対策 E-learning 開催）します。 ・CPC を定期的開催（2025 年度実績 5 回）します。
3) 診療経験の環境 【整備基準 24】	カリキュラムに示す内科領域 13 分野を定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
4) 学術活動の環境 【整備基準 24】	日本内科学会講演会あるいは同地方会に学会発表（2019 年度実績 10 演題）をしています。
指導責任者	羽白 高 【内科専攻医へのメッセージ】 来る高齢化社会では患者の 1 つの病気をただ治すといった治療モデルでは難しく、多疾患の同時並行的な治療を求められる。またキュアからケアへの移行、患者との死生観の共有が必要と考えられる。天理よろづ相談所病院は昭和 51 年よりレジデント制度を開始し、昭和 53 年よりシニアレジデントの内科ローテイトコースを行っている。また奈良県東和医療圏の急性期病院として役割を担っている。これらの経験を活かし、専門的な臓器別診療だけではなく、内科全般や更に医療周辺の社会機構にわたる幅広い知識や経験を基礎にバランスよく患者を診療する能力をもった内科医を養成したいと考えている。
指導医数（常勤医）	日本内科学会指導医 37 名 日本内科学会総合内科専門医 33 名 日本消化器病学会消化器専門医 8 名 日本循環器学会循環器専門医 9 名 日本内分泌学会専門医 5 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 9 名 日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 4 名 日本アレルギー学会専門医（内科）2 名 日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 1 名ほか
外来・入院患者数	外来：約 1,800 名（1 日平均） 入院：約 500 名（1 日平均延）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。

経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器内視鏡学会専門医制度指導施設 日本消化器病学会専門医制度認定施設 日本肝臓学会専門医制度認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本神経学会専門医教育施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本感染症学会専門医研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 ステントグラフト実施施設（胸部） ステントグラフト実施施設（腹部） 日本内分泌学会内分泌学会認定教育施設 日本不整脈心電学会不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本内分泌・甲状腺外科学会専門医制度認定施設 など

29. 奈良県総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・有期専門職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があり、月に1度メンタルヘルス相談会が開催されています。 ・ハラスメント防止委員会が奈良県総合医療センターに整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所があり利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 25 名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会（統括責任者：前田副院長）にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床研

	修医支援室があります。 ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会（ICT 勉強会）を定期的開催（2025 年度実績：医療安全講習会 2 回，感染対策講習会（ICT 勉強会）7 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的主催し，専攻医に 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的開催（2025 年度実績 5 回）し，専攻医に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（基幹施設：奈良県総合医療センター病診・病病連携医療講座：13 回開催．集学的がん治療勉強会：4 回開催，緩和ケア勉強会 1 回）を定期的開催し，専攻医 に受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け，そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修支援室が対応します。
認定基準 【整備基準 23】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域全領域で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）． ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群（少なくとも 35 以上の疾患群）について研修できます（上記）． ・専門研修に必要な剖検（2025 年度 7 体、2024 年度 9 体、2023 年度 9 体、2022 年度 3 体、2021 年度 7 体、2020 年度 8 体、2019 年度 12 体、2018 年度実績 15 体）を行っています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室などを整備しています。 ・倫理委員会を設置し，定期的開催（2025 年度実績 11 回）しています。 ・治験管理室を設置し，定期的に受託研究審査会を開催（2025 年度実績 11 回） しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	副院長兼感染症内科部長 前田 光一
指導医数（常勤）	日本内科学会指導医 19 名，日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 9 名，日本肝臓学会肝臓専門医 6 名 日本内分泌学会専門医 2 名，日本循環器学会循環器専門医 8 名 日本糖尿病学会専門医 1 名，日本腎臓病学会専門医 2 名 日本呼吸器学会呼吸器専門医 6 名，日本血液学会血液専門医 5 名 日本神経学会神経内科専門医 6 名，日本リウマチ学会専門医 2 名 日本感染症学会専門医 2 名 日本救急医学会救急科専門医 20 名，ほか
外来・入院 患者数 （内科系）	外来患者 1,296 名（1 日平均） 入院患者 440 名（1 日平均） ※2025 年度実績
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づき

	ながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 (内科系)	日本内科学会認定医制度教育病院 日本消化器病学会認定施設 日本肝臓学会認定施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修関連施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本呼吸器学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本2神経学会教育関連施設 日本救急医学会救急科専門医指定施設 日本脳卒中学会認定研修教育病院 日本呼吸器内視鏡学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本感染症学会認定研修施設

30. 兵庫県立尼崎総合医療センター

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 ・研修に必要なメディカルライブラリーとインターネット環境があります。学術情報が検索できるデータベース・サービス (Cochrane, Libraly, ClinicalKey, DynaMed, MEDLINEComplete, Medicalonline, 医中誌web など) 利用できます。 ・当院での研修中は、兵庫県会計年度任用職員として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ・ハラスメント委員会が整備されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、休憩室、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 ・敷地内に院内保育所及び病児・病後児保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は 43 名在籍しています (下記)。 ・内科専門研修プログラム管理委員会 (統括責任者 (教育部長: 総合内科専門医かつ指導医) にて、基幹施設、連携施設に設置されている研修委員会との連携を図ります。 ・基幹施設内において研修する専攻医の研修を管理する内科専門研修委員会と臨床

	研修センターを設置. ・医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・CPC を定期的に開催（2023 年度開催 7 回, 2024 年度 5 回, 2025 年度 5 回）し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講（2023 年度開催 1 回, 2024 年度 2 回, 2025 年度 2 回）を義務付け、そのための時間的余裕を与えます. ・日本専門医機構による施設実地調査に臨床研修センターが対応します.
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域 13 分野のうち全分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています（上記）. ・70 疾患群のうちほぼ全疾患群について研修できます（上記）. ・専門研修に必要な剖検（2023 年度実績 10 体 2024 年度 18 体, 2025 年度 12 体）を行っています.
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室、写真室などを整備しています. ・倫理委員会を設置し、定期的に開催（2023 年度実績 3 回, 2024 年度 2 回, 2025 年度 2 回）しています. ・治験管理室(クリニカルリサーチセンター)を設置し、定期的に受託研究審査会を開催（2023 年度実績 12 回, 2024 年度 12 回, 2025 年度 12 回）しています. ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 3 演題以上の学会発表（2023 年度 9 演題, 2024 年度 9 演題, 2025 年度 8 演題）をしています.
指導責任者	田中 麻理 【内科専攻医へのメッセージ】 兵庫県立尼崎総合医療センター（AGMC）は、兵庫県阪神医療圏の中心的高度急性期病院です。転居することなく、通勤可能圏内での連携施設研修ができる選択肢があります。研修施設群には十分な症例数があり、専門研修 1 年目と 2 年目で症例目標は達成できると考えています。 当院内科系専門診療科のモットーは、「ジェネラルにも対応できる専門医養成」です。下欄に示すように内科系サブスペシャリティ専門医・指導医を多数擁しております。内科専門医研修でジェネラルをおさえつつ、サブスペシャリティを究めていただきたい。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 43 名、日本内科学会総合内科専門医 23 名、 日本消化器病学会消化器専門医 9 名、日本肝臓学会専門医 7 名、 日本循環器学会循環器専門医 14 名、日本内分泌学会専門医 3 名、 日本糖尿病学会専門医 3 名、日本腎臓病学会専門医 4 名、 日本呼吸器学会呼吸器専門医 4 名、日本血液学会血液専門医 4 名、日本神経学会神経内科専門医 6 名、日本リウマチ学会専門医 4 名、 日本老年学会専門医 1 名、日本救急医学会救急科専門医 3 名 ほか ※内科系診療科のみ

外来・入院患者数	外来延患者 17,015 名（1 ヶ月平均） 入院患者実数 9,865（1 ヶ月平均）※内科系のみ
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて，研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域，70 疾患群の症例を幅広く経験することができます．
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を，実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます．
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく，超高齢社会に対応した地域に根ざした医療，病診・病病連携なども経験できます．
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定専門医教育病院 日本呼吸器学会認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器病学会指導施設 日本循環器学会認定循環器専門研修施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会認定施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本神経学会教育施設 日本血液学会認定研修施設 日本東洋医学会専門医教育施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設 日本救急医学会救急科専門医訓練施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医診療施設 日本心血管インターベション学会認定研修施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化器内視鏡学会指導施設 胸部・腹部大動脈瘤ステントグラフト実施施設 など

31. 広島赤十字・原爆病院

認定基準 【整備基準 23】 1) 専攻医の環境	初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。 研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 シニアレジデントもしくは指導診療医として労務環境が保障されています。 メンタルストレスに適切に対処する部署があります。 ハラスメント委員会が整備されています。 女性専攻医が安心して勤務できるように、更衣室、仮眠室、シャワー室、当直室が整備されています。 敷地内に院内保育所があり、利用可能です。
--------------------------------	--

認定基準 【整備基準 23】 2) 専門研修プログラムの環境	内科指導医が 24 名在籍しています。 研修プログラム管理委員会を設置し、基幹施設および連携施設の研修委員会との連携を行います。 ・プログラム統括責任者：澤部 琢哉（リウマチ科部長） 院内で研修を管理する研修委員会を設置します。 ・委員長：横山 敬生（腎臓内科部長） 医療倫理・医療安全・感染対策講習会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 医療倫理 1 回、医療安全 5 回、感染対策 8 回） 研修施設群合同カンファレンス（2026 年度予定）に定期的に参画し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 C P C を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 4 回） 地域参加型のカンファレンスを定期的に開催し、専攻医に受講のための時間的余裕を与えます。（2025 年度実績 18 回）
認定基準 【整備基準 23/31】 3) 診療経験の環境	カリキュラムに示す内科の領域の分野で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。
認定基準 【整備基準 23】 4) 学術活動の環境	日本内科学会講演会あるいは同地方会に年間で計 1 演題以上の学会発表をしています。
指導責任者	澤部 琢哉 【内科専攻医へのメッセージ】 当病院は、地域がん診療連携拠点病院・地域医療支援病院・災害拠点病院であり、また医科・歯科の臨床研修指定病院でもある基幹病院です。多数の内科指導医・内科サブスペシャリティ専門医の指導のもと、主担当医として入院から退院（初診・入院～退院・通院）まで経時的に、診断・治療の流れを通じて、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践できる内科専門医になるための研修を受けられます。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 5 名 日本内科学会総合内科専門医 22 名 日本消化器病学会消化器専門医 10 名 日本肝臓学会肝臓専門医 3 名 日本循環器学会循環器専門医 3 名 日本内分泌学会内分泌代謝科専門医 2 名 日本糖尿病学会専門医 2 名 日本腎臓学会腎臓専門医 2 名 日本呼吸器内視鏡学会気管支鏡専門医 3 名 日本呼吸器学会専門医 3 名 日本神経学会神経内科専門医 1 名 日本血液学会認定血液専門医 9 名 日本リウマチ学会リウマチ専門医 2 名 など

外来・入院患者延数	外来患者 26,644 名（1 ヶ月平均） 入院患者 14,816 名（1 ヶ月平均）
経験できる疾患群	きわめて稀な疾患を除いて、研修手帳（疾患群項目表）にある 13 領域、70 疾患群の症例を経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	がんや循環器疾患・脳血管障害等の急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応したがん患者の診断、治療、終末期医療などを通じて、地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設 （内科系）	日本内科学会認定医制度教育病院 日本肝臓学会認定施設 日本腎臓学会研修施設 日本透析医学会専門医制度認定施設 日本血液学会認定血液研修施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本内分泌学会認定教育施設 日本リウマチ学会教育施設 日本神経学会専門医制度准教育関連施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設群連携施設 日本高血圧学会専門医認定施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本感染症学会研修施設 日本呼吸器内視鏡学会専門医制度認定施設 日本老年医学会認定施設 日本消化器内視鏡学会認定専門医制度指導施設 日本消化器病学会認定医制度認定施設 日本胆道学会認定施設 日本病態栄養学会認定栄養管理・NST 実施施設 日本栄養治療学会 NST 稼働施設 日本栄養療法推進協議会認定 NST 稼働施設 日本骨髄バンク非血縁者間骨髄採取施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本骨髄バンク非血縁者間末梢血幹細胞採取・移植施設認定施設 日本造血細胞移植学会非血縁者間造血幹細胞移植施設 日本脾臓学会認定指導医制度指導施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本病院総合診療医学会認定施設 など

32. 済生会千里病院

認定基準	・初期臨床研修制度基幹型研修指定病院です。
------	-----------------------

【整備基準 24】 1) 専攻医の環境	・研修に必要な図書室とインターネット環境があります。 ・常勤医師として労務環境が保障されています。 ・メンタルストレスに適切に対処する部署（職員のメンタル管理の仕事を中心とする公認心理士3名が配属）があります。 ・ハラスメント委員会が院内に設置されています。 ・女性専攻医が安心して勤務できるように、女医休憩室、女医当直室、更衣室、シャワー室が整備されています。 ・管理棟内に職員家族用の院内保育所があり、利用可能です。
認定基準 【整備基準 24】 2) 専門研修プログラムの環境	・指導医は27名在籍しています。 ・内科専門研修プログラム管理委員会にて、基幹施設、連携施設の研修委員会との連携を図り専攻医の研修を管理します。 ・医療倫理研修会・医療安全研修会・感染対策研修会を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・研修施設群合同カンファレンスを定期的に主催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・CPC を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・地域参加型のカンファレンス（千里診療連携セミナー）を定期的に開催し、専攻医に受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・プログラムに所属する全専攻医に JMECC 受講を義務付け、そのための時間的余裕を与えます。 ・日本専門医機構による施設実地調査に専攻医研修センターが対応します。
認定基準 【整備基準 24】 3) 診療経験の環境	・カリキュラムに示す内科領域13分野のうち8分野（総合内科、消化器、循環器、代謝、腎臓、呼吸器、膠原病、救急）で定常的に専門研修が可能な症例数を診療しています。また、70疾患群のうち56疾患群について研修できます。 ・専門研修に必要な剖検（2025年度4体）を行っています。
認定基準 【整備基準 24】 4) 学術活動の環境	・臨床研究に必要な図書室を整備しています。医学中央雑誌のweb版（医中誌web）、「メディカルオンライン」が利用できます。英語の文献は近畿病院図書室協議会のKIT0catのシステムを利用して文献を取り寄せることが可能です。その他、英語で「UpToDate」が、日本語で「今日の臨床サポート」が使用できます。 ・外部委員も参加する倫理委員会を設置し、定期的に開催しています。 ・治験管理室を設置し、定期的に受託研究審査会を開催しています。 ・日本内科学会講演会あるいは同地方会に継続して学会発表をしています。
指導責任者	プログラム統括責任者：西尾 まゆ 【内科専攻医へのメッセージ】 当院は、大阪府豊能医療圏の中心的な急性期病院であり、近隣医療圏にある連携施設・特別連携施設とも連携して内科専門研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる内科専門医を目指します。
指導医数 （常勤医）	日本内科学会指導医 <u>2</u> 名、日本内科学会総合内科指導医 <u>2</u> 名、日本消化器病学会指導医 <u>1</u> 名、日本消化器内視鏡学会指導医 <u>1</u> 名、日本消化管学会指導医 <u>1</u> 名、日本超音波医学会指導医 <u>3</u> 名、日本脈管学会指導医 <u>3</u> 名、日本高血圧学会指導医 <u>1</u> 名、日本リウマチ学会指導医 <u>3</u> 名、日本糖尿病学会指導医 <u>2</u> 名、日本救急医学会救急科指導医 <u>5</u> 名、日本呼吸器学会指導医 <u>3</u> 名
外来・入院患者数	新外来患者数 1900 名（1ヶ月平均）（2025年度） 新入院患者数 757 名（1ヶ月平均）（2025年度）
経験できる疾患群	当院において研修手帳（疾患群項目表）にある13領域にある56疾患群の症例を幅広く経験することができます。
経験できる技術・技能	技術・技能評価手帳にある内科専門医に必要な技術・技能を、実際の症例に基づきながら幅広く経験することができます。
経験できる地域医療・診療連携	急性期医療だけでなく、超高齢社会に対応した地域に根ざした医療、病診・病病連携なども経験できます。
学会認定施設	日本消化器病学会認定施設 日本消化器病学会認定施設 日本消化器内視鏡学会指導連携施設

	日本肝臓学会特別連携施設 日本消化管学会胃腸科指導施設 日本循環器学会認定循環器専門医研修施設 日本超音波医学会認定超音波専門医研修施設 日本心血管インターベンション治療学会研修施設 日本脈管学会認定研修施設 日本高血圧学会高血圧認定研修施設 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 日本リウマチ学会教育施設 日本糖尿病学会認定教育施設 日本がん治療認定医機構認定研修施設 日本救急医学会指導医指定施設 日本集中治療医学会専門医研修施設
--	--

別表資料D 各年次到達目標

内科専門研修 修了要件(「症例数」、「疾患群」、「病歴要約」)一覧表

	内容	症例数	疾患群	病歴要約提出数
分野	総合内科Ⅰ(一般)	計10以上	1	2
	総合内科Ⅱ(高齢者)		1	
	総合内科Ⅲ(腫瘍)		1	
	消化器	10以上	5以上	3
	循環器	10以上	5以上	3
	内分泌	3以上	2以上	3
	代謝	10以上	3以上	
	腎臓	10以上	4以上	2
	呼吸器	10以上	4以上	3
	血液	3以上	2以上	2
	神経	10以上	5以上	2
	アレルギー	3以上	1以上	1
	膠原病	3以上	1以上	1
	感染症	8以上	2以上	2
	救急	10以上	4	2
	外科紹介症例	2以上		2
	剖検症例	1以上		1
	合計	120以上 (外来は最大12)	56 疾患群 (任意選択含む)	29 (外来は最大7)

補足

1. 目標設定と修了要件

以下に年次ごとの目標設定を掲げるが、目標はあくまで目安であるため必達ではなく、修了要件を満たせば問題ない。各プログラムでは専攻医の進捗、キャリア志向、ライフイベント等を踏まえ、研修計画は柔軟に取り組んでいただきたい。

	症例	疾患群	病歴要約
目標(研修終了時)	200	70	29
修了要件	120	56	29
専攻医2年修了時 目安	80	45	20
専攻医1年修了時 目安	40	20	10

2. 疾患群

修了要件に示した領域の合計数は41疾患群であるが、他に異なる15疾患群の経

験を加えて、合計 56 疾患群以上 の経験とする。

3. 病歴要約

病歴要約は全て異なる疾患群での提出が必要。ただし、外科紹介症例、剖検症例については、疾患群の重複を認める。

4. 各領域について

① 総合内科：病歴要約は「総合内科Ⅰ（一般）」、「総合内科Ⅱ（高齢者）」、「総合内科（腫瘍）」の異なる領域から 1 例ずつ計 2 例提出する。

② 消化器：疾患群の経験と病歴要約の提出それぞれにおいて「消化管」、「肝臓」、「胆・膵」が含まれること。

③ 内分泌と代謝：それぞれ 1 症例ずつ以上の病歴要約を提出する。

例) 「内分泌」2 例＋「代謝」1 例、「内分泌」1 例＋「代謝」2 例

5. 臨床研修時の症例について

例外的に各プログラムの委員会が認める内容に限り、その登録が認められる。登録は最大 60 症例を上限とし、病歴要約への適用については最大 14 症例を上限とする。

別表資料 E

大阪大学医学部附属病院内科専門研修プログラム管理委員会

(令和 8 年 5 月)

大阪大学医学部附属病院

山本浩一（プログラム統括責任者、研修委員会委員長、老年総合内科分野責任者）
保仙直毅（副プログラム統括責任者、血液内科分野責任者）
小玉尚宏（消化器内科分野責任者）
奥野龍禎（神経内科分野責任者）
猪阪善隆（腎臓内科分野責任者）
檜崎雅司（免疫内科分野責任者）
平田陽彦（呼吸器内科分野責任者）
坂田泰史（循環器内科分野責任者）
小澤純二（糖尿病・内分泌・代謝内科分野責任者）
忽那賢志（感染症内科責任者）

連携施設担当委員（連携施設 研修委員会委員長）

市立池田病院	石田永
市立豊中病院	小杉智
箕面市立病院	森谷真之
国立循環器病研究センター病院	野口暉夫
国立病院機構大阪刀根山医療センター	松村剛
一般財団法人住友病院	山本浩司
日本生命病院	橋本久仁彦
淀川キリスト教病院	紙森隆雄
大阪国際がんセンター	大川和良
桜橋渡辺未来医療病院	岩倉克臣
堺市立総合医療センター	西田幸司
紀南病院	橋本整司
市立吹田市民病院	火伏俊之
川崎病院	飯田正人
兵庫県立西宮総合医療センター	檜原啓之
市立伊丹病院	村山洋子

川西市立総合医療センター
市立東大阪医療センター
大阪はびきの医療センター
大阪けいさつ病院
大阪急性期・総合医療センター
地域医療機能推進機構大阪病院
大阪ろうさい病院
国立病院機構大阪医療センター
りんくう総合医療センター
兵庫医科大学
亀田総合病院
天理よろづ相談所病院
奈良県総合医療センター
兵庫県立尼崎総合医療センター
広島赤十字・原爆病院
済生会千里病院

厨子慎一郎
鷹野譲
森下 裕
飯島英樹
林晃正
金子晃
山内淳
柴山浩彦
倭正也
木島 貴志
中路聡
羽白高
前田光一
田中麻理
澤部琢哉
西尾まゆ